

# 福岡交通公社

# The Creed of Junior Chamber International

# JCI 綱領

We Believe :

That faith in God gives meaning  
and purpose to human life;  
That the brotherhood of man  
transcends the sovereignty of nations;  
That economic justice can best be won  
by free men through free enterprise;  
That government should be of laws  
rather than of men;  
That earth's great treasure lies in  
human personality; and  
That service to humanity is the best  
work of life.

我々はかく信じる：

真理は人生に意義と目的を与え  
人類の同胞愛は国家による統治を超越し  
公正な経済は我々の自由な経済活動に  
よってこそ果たされ  
政府には人治ではなく法治が必要であり  
人間の個性はこの世の至宝であり  
人類への奉仕が人生最大の使命である

<1947 年世界会議総会採択>

<1951 年一部追加>

---

## JCI Mission

To provide leadership development  
opportunities that empower young  
people to create positive change.

## JCI ミッション

青年会議所は、青年が社会により良い変化を  
もたらすためにリーダーシップの  
開発と成長の機会を提供する。

<2008 年世界会議総会採択>

---

## JCI Vision

To be the foremost global network  
of young leaders.

## JCI ビジョン

青年会議所が、若きリーダーの  
国際的ネットワークを先導する組織となる。

<2008 年世界会議総会採択>

---

## JC 宣言

日本の青年会議所は  
希望をもたらす変革の起点として  
輝く個性が調和する未来を描き  
社会の課題を解決することで  
持続可能な地域を創ることを誓う

---

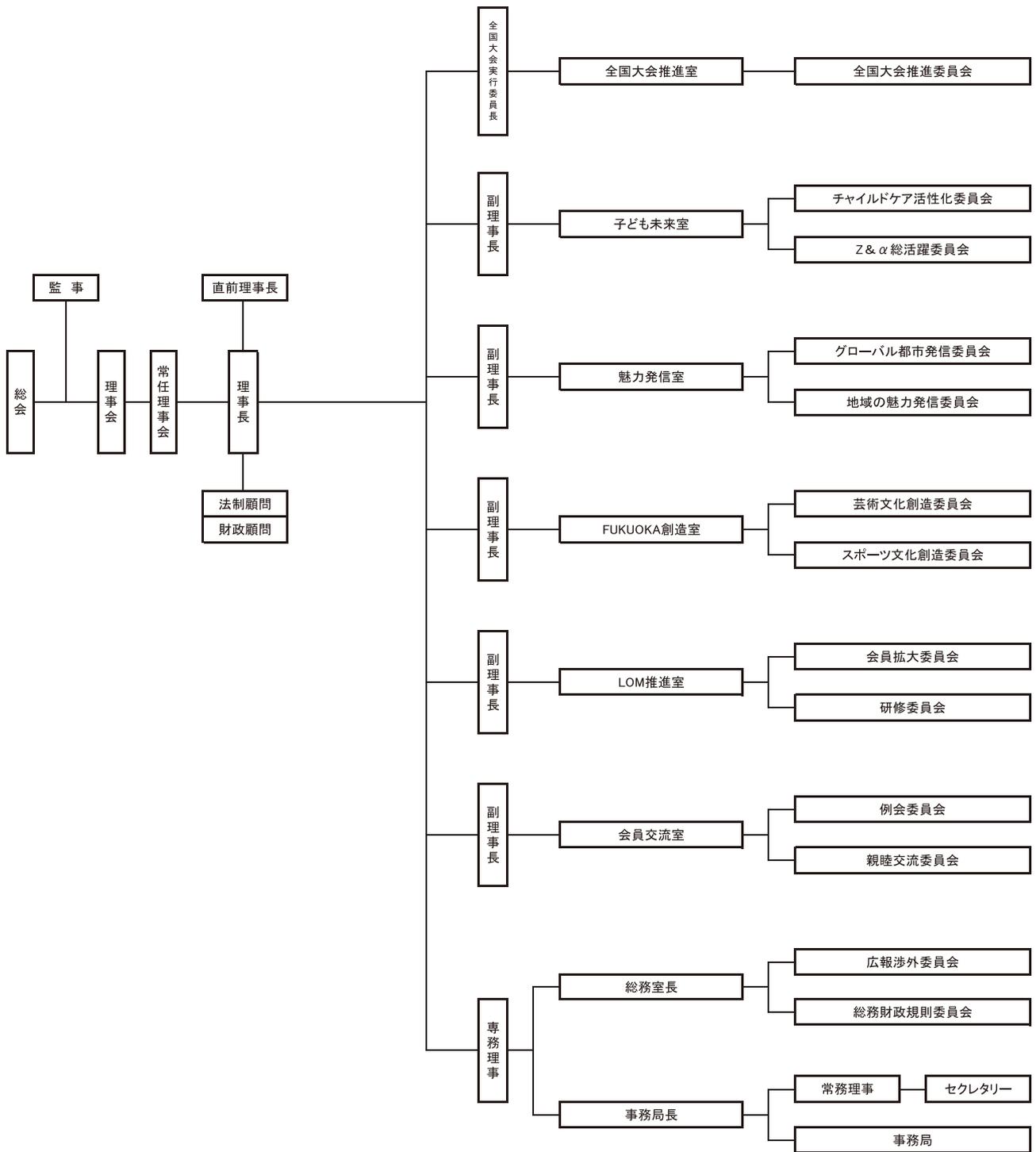
## 綱領

われわれ JAYCEE は  
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し  
志を同じうする者 相集い 力を合わせ  
青年としての  
英知と勇気と情熱をもって  
明るい豊かな社会を築き上げよう

# 目次

2024年度	組織図	2
2024年度	役員	3
2024年度	理事長所信	4
2024年度	理事長、直前理事長、副理事長、専務理事、 監事、法制顧問、財政顧問、事務局長、 常務理事、セクレタリー	10
2024年度	室・委員会 基本方針・事業計画	12
2024年度	室・委員会 所務分掌規程	34
2024年度	委員会編成表	36
	青年会議所の概況	37
2024年度	日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会 組織図	38
	福岡青年会議所 歴代理事長	41
	出向外部団体一覧	42

一般社団法人 福岡青年会議所  
2024年度 組織図(案)



# 一般社団法人 福岡青年会議所 2024年度 役員

<p>理事長</p> <p>全国大会実行委員長 (副理事長待遇常任理事)</p> <p>副理事長</p> <p>専務理事</p>	<p>石坂 泰三</p> <p>中原 壮一郎</p> <p>尾本 勝 征 堤 祐一郎 榊 洋 章 古田 真 幸 原 真 幸 翼</p> <p>吉田 豊</p>	<p>直前理事長</p> <p>監 事</p> <p>法制顧問</p> <p>財政顧問</p>	<p>前川 裕 貴</p> <p>水崎 浩 二</p> <p>阿部 健太郎 奥 膳 和 時</p> <p>伊東 健太郎 三浦 隆 祐</p>
--	---	---	--

<p>常任理事</p> <p>理 事</p> <p>常務理事</p>	<p>佐伯 公 大 甲木 正 孝 上田 久 紀 大幡 則 文 立部 真 康 田雑 嘉 貢 田原 義 也 中之藪 匡 伸</p> <p>加地 優 紀 鶴 和 晃 森 重 樹 本間 晃 平 後藤 雄 治 小柳 佑 貴 馬場 秀 一 高山 剛 寺田 光 児 日野 修 治 濱田 正 輝 麻生 良 太 伊達 高 志 郎</p> <p>倉掛 裕 輔</p> <p>小木曾 圭 太 小菅 良 助</p>	<p>事務局長</p> <p>全国大会推進室長</p> <p>子ども未来室長</p> <p>魅力発信室長</p> <p>FUKUOKA 創造室長</p> <p>LOM 推進室長</p> <p>会員交流室長</p> <p>総務室長</p> <p>全国大会推進委員長</p> <p>チャイルドケア活性化委員長</p> <p>Z &amp; α 総活躍委員長</p> <p>グローバル都市発信委員長</p> <p>地域の魅力発信委員長</p> <p>芸術文化創造委員長</p> <p>スポーツ文化創造委員長</p> <p>会員拡大委員長</p> <p>研修委員長</p> <p>例会委員長</p> <p>親睦交流委員長</p> <p>広報渉外委員長</p> <p>総務財政規則委員長</p> <p>(福岡ブロック協議会 委員長)</p>
------------------------------------	---	---

# 環・みらいへ



理事長 石坂泰三

2023年度福岡JCは70周年を迎え、これからの大きな変化が予測される未来に向けて、新たな舵をきりました。2020年から世界は新型コロナウイルス感染症の猛威に見舞われ、非日常の生活を余儀なくされ、約3年は青年会議所の活動も自粛しなければならない状況が続きました。しかし2022年の終わりごろからは世界的に行動制限も解除され、日本でも徐々にではありますが経済活動が戻り、2023年5月からは新型コロナウイルス感染症5類に引き下げられ、季節性インフルエンザなどと同等の扱いになりました。

コロナ禍によって顕在化した課題は多々ありますが、私たち福岡JCは、福岡のまちのために、そして福岡に住み暮らすひとのために、これからも未来に向けて確かな歩みを続けていかなければなりません。今後はコロナでの活動自粛の経験も多に活かしつつ、活動をおこなっていくべきではないでしょうか。

2022年に掲げた提言書「こども未来都市宣言」を皮切りに、70周年を迎えた福岡JCは福岡のまちでさらなる発展を目指して動き出しました。この提言書で掲げた3つの柱、「グローバルシティ」「アートシティ」「アーバンスポーツシティ」を軸とした活動を着実に展開していくことが重要なのです。2023年度を皮切りに、JCの単年度制を活かす視点で、さまざまな活動をしていくことが必要不可欠です。そして今後はこの3つの柱から派生する具体的な課題に関しても、私たちは真摯に受け止め活動していこうではありませんか。

## 「全国大会に向けて」

今年度は35年ぶりに福岡の地で全国大会福岡大会が開催されますが、35年前は私の父親が全国大会の理事長を務めさせていただきました。

今年の全国大会開催地理事長を私が務めるということは、大きなプレッシャーでもありますが、たくされた運命というものを感じました。私の父親は数年前に他界し、その当時のことを父本人から聞くことはかありませんが、当時実施された全国大会以上のことを成し遂げることこそが私自身の使命なのではないかとおもっています。

35年前に開催された全国大会から、まちは急速に変化してきたと感じています。この変化をさらに加速させるためには、今年度10月の全国大会福岡大会の開催はまたとない好機だと考えます。しかし全国大会だけに注力するのでは、LOMの活動としては十分とは言えません。私たち福岡JCメンバーは福岡のまちのため、ひとのために活動していくことが肝要です。

2021年の主管決定から、試行錯誤しながら全国大会福岡大会に向けて大会構築をおこなってきました。そして今年度の全国大会はその準備してきたことを形にして日本JCと共に実施に向けて動いていかなければなりません。そのためにLOM全体をどのように巻き込んでいくか、

一人ひとりが自問自答し活動していくことが重要だと考えています。

全国大会を主管するうえで、JC としてよく耳にするのは 5 益という言葉です。地域益、社会益、主催者益、主管益、参加者益この 5 益の中で特に福岡 JC が意識しなければならないのは、主管益、地域益だと感じています。

主管益は LOM の組織としての結束力が高められ、行政、他団体、個人との強いネットワークが構築、強化されます。地域益は全国大会を通じて行政、企業、団体、個人が福岡の風土、伝統、文化、まちづくり、食などの魅力を全国に発信できます。

福岡 JC としてはまちのためひとのために、主管益、地域益、を第一に考え全国大会福岡大会を構築し、全国の JC メンバーに福岡 JC という存在、福岡のまちの魅力を知っていただく貴重な機会にしていきたいと思います。

そのためには、やはり JC としての周到な準備がより重要になってくると強く感じています。全国大会福岡大会が開催されるからといって、通常の運動、活動を断念するのは、福岡 JC で活動しているメンバーの成長にはつながりません。そこで今年度は福岡 JC としての通常の活動をおこないながら、全国大会の準備、実施をしていくことになります。それには早い段階からの調査、研究がより重要になり、事業構築も今まで以上にスピード感をもって取り組んでいかなければなりません。LOM の通常の動きよりも一歩先を見据えて皆さんには活動していただきたい。

また、この全国大会を大成功におさめるために、重要になってくるのは組織そのものの在り方ではないでしょうか。全国大会では莫大な予算で事業が実施され、全国の JC メンバーがこの福岡の地で、私たちが日本 JC と作り上げていく全国大会を体感するという事を考えれば、財政面、コンプライアンス面がより重要になってきます。全国のメンバーが参加する大会において、福岡 JC の取り組む姿勢も重要であり、制作物をはじめとして、パワーポイント一つにしても正確なチェック体制が必要であり、入念な予算の調整が必要になってきます。

福岡 JC としてもこの全国大会を機に今一度、財政面の在り方、コンプライアンス面の在り方を見直していくことで未来の福岡 JC の活動につなげていきたいと思います。

また全国大会に全国各地の青年会議所メンバーに来福してもらうために、インパクトを与える広報活動も重要になってきます。ネット社会が主流となっている今、SNS の使い方一つにしてもさまざまなやり方があると実感しています。新しいことに挑戦し、この全国大会を機に福岡 JC としての広報の在り方も確立していき、未来の活動につなげていければとおもいます。

## 「日本 JC、九州地区、福岡ブロックとの連携強化」

全国大会を構築し成功に導くにはメンバー一人ひとりの力と LOM の結束なくしては達成できません。しかし福岡 JC だけで成功に導くには難しいことも多くあると感じています。

主管が決まってから行政、他団体、他 LOM との連携強化には務めてきましたが、全国大会では九州地区協議会、福岡ブロック協議会との連携も今以上に強固なものにしていかなければなりません。

いままで通り動いては、さらなる協力体制強化にはつながっていきません。今回、副主管をお願いする九州地区協議会、福岡ブロック協議会、福岡県内の 21LOM の皆様のもとへは足を運んでご案内、ご協力のお願いに多くのメンバーと行く必要があると考えています。

また全国大会を成功に終わらせるには、実際に大会に登録していただかなければならないのが現状です。そのために全国の地区協議会、九州内のブロック協議会などに PR、キャラバンを実

施し参加促進につなげていく必要があります。

昔ながらの JC、泥臭い JC をしなければいけないとはおもいませんが、全国大会を機に JC の行動力、実行力を肌で感じ、今後の JC 活動にも活かせる経験を積んでいきましょう。

## 「新たな価値観を見出す、出向の大切さ」

JC に所属していることで、メンバー一人ひとりに出向の機会があります。

日本 JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会に役を受けて出向するメンバー、委員として出向するひとなど、さまざまな役柄があるとおもいます。

これまでも九州地区協議会や福岡ブロック協議会へ役員として出向してきたことで、メンバーも多く経験を積んできたとおもいます。また 2020 年に国際アカデミーを主管してから、2024 年の全国大会主管が決まり、日本 JC への議長・委員長、VC、幹事の出向は当たり前になってきました。これからは日本 JC へ役員出向をおこなうなど、全国大会を機に出向の在り方が変わっていくのではないかと考えています。

メンバーとして LOM で活動をするのも、一つの活動の在り方だとはおもいますが、私自身が 2021 年に日本の議長を経験させてもらい、多くの学びと経験、そしてひとつのつながりを得ることができました。

私にとって 2021 年という年は福岡 JC のサポートのみならず、多くの方々に支えられて活動ができた 1 年となりました。経験の数は与えられる役職によっても変わり、その役職の中で自身がどのように活動するかによっても変わってきます。

出向先では新たな他 LOM との出会いがあり、多種多様な方々とも出会う機会もあります。その中で、他 LOM の活動や、他団体の取り組みなど、LOM の未来につながるヒントや出会いが数多くあると感じています。出向したからこそ LOM に持ち帰ってこられること、自分自身の所属組織に持ち帰れるものがきっとあるはずです。

新たな友達を作るのもよし、一緒にビジネスをするのもよし、出向する楽しさを自身で見つけていくことで、新たな価値観を見出してください。

## 「グローバルな視点で考える福岡のまち」

これから先、日本の総人口の減少により海外からの労働力も必要不可欠になっていきます。福岡市だけを見れば、海外や他県の方々が移住してきているため人口は増加しています。福岡市の外国人人口は令和 5 年 4 月で 41,153 になっていて、アジア圏の人数が多いものの、今後を見据えれば福岡というまちは、アジアの玄関口だけではなく、世界の玄関口へと推し進めていく都市としての素質と力を兼ね備えているのではないのでしょうか。

現在、台湾の半導体受託生産最大手の TSMC が熊本に進出し、工場を建設しています。この工場では海外の労働者が働き、その家族も移住してくると言われているため、1,000 名以上のひとが海外から移住してきます。

今後は海外から移住してきた若者たちが、日本国内の青年会議所に入会してくることも増えてくるのではないのでしょうか。

この現状を踏まえ、福岡 JC として海外のひとたちに、福岡のまちの魅力、伝統や文化をより深く知ってもらい、福岡に住んでいる市民との交流を増やし、共にこのまちのさらなる発展を目指して欲しいと願っています。そのためには私たちが福岡のまちの魅力、伝統や文化への理解を

深めていく必要があると考えています。そして今後は、福岡のまちを国際都市としてどのような位置づけにするかが重要なテーマになってくるとおもいます。

グローバル化が進むことによって、海外からの流入が増え、福岡のまちは多文化社会へと進化していきます。多文化が福岡のまちにもたらす影響を考えれば、福岡のまちは多文化社会の主導都市として今後成長していくことで、新たなグローバルシティへと発展していくと信じています。

グローバル化を進めていくために重要な一つとして、コミュニケーション能力があります。グローバルシティを目指していく以上、共通言語を身につけるということは必要不可欠ではないかと考えています。それが多くの多文化を受け入れ、理解を深めるということにつながるとおもいます。

## 「まちの未来に新たな光を」

子供のころから磨かれてきた感性は、未来の福岡のまちの発展に寄与していきます。2022年に作成した福岡 JC の提言書「こども未来都市宣言」の中に、「アートシティ」「アーバンスポーツシティ」があります。芸術、スポーツを通じて子供たちに、新たな感性を磨いてもらいたいという意味が込められていて、その感性を磨く環境をつくるのは私たち大人の役目であり、福岡 JC の役割ではないでしょうか。

そのために私たち福岡 JC ができることは何でしょうか。福岡のまちに新たな芸術文化、スポーツ文化を確立すること、そしてその新しい文化を福岡から全国さらには世界へと発信していくことでしょう。

福岡市でも、2022年から Fukuoka Art Next や 2023年には世界水泳選手権福岡大会など、市をあげて、アートやスポーツにも力を入れています。しかしプロ野球球団やプロサッカーチームはあるものの、その他にアート文化、スポーツ文化がこの福岡のまちに根付いているとは言い難いとおもいます。そこで誰もがおもいつく当たり前のことではなく、子供たちの豊かな感性を磨いていける新たなアート文化、スポーツ文化をまち全体に根付かせていきたいと考えています。

## 「福岡のまちの魅力、ひとの魅力を発信していくために」

10月に全国大会が開催されるため、産学官民との連携は今まで以上に重要になってくると考えていますが、これからも持続的に福岡のまちの魅力、ひとの魅力を発信していくためには、福岡 JC と産学官民との強固な関係性構築が今後の課題だと考えています。

福岡市が進めている天神ビックバン、博多コネクティッドなどで、新しいまちの魅力、文化を構築していくことは、未来の福岡のまちにとって重要なことではありますが、それに加えて福岡の歴史、文化をこれから発信していくことが、福岡のまちをアジア NO.1 都市へと進化させてしていけるのではないかと感じています。

福岡のまちが抱えている課題や問題を第一に理解し、どのような形で解決していくのか、産学官民のそれぞれが必要に応じて連携を取りながら進化、変化させていくきっかけを福岡 JC として作っていききたいとおもいます。

## 「福岡のさらなる発展のため、ミライへの挑戦」

全国的な問題として超高齢化社会に直面しており、子供の出生率は年々減少しています。第一次ベビーブームは最高 270 万人の子供が、第 2 次ベビーブームは最高 209 万人の子供が出生

していました。しかし令和元年では 100 万人の大台を割り 87 万人となっています。

全国的に見ると福岡県の出生率、人口の増加率は相対的に高いものの、このままでは少子高齢化が加速します。子供を生みやすい環境を高いレベルで県や市とタッグを組み改善していくことも必要不可欠です。県や市のサポートは増えてきており、今年度は、第 2 子以降の保育料を完全無償化、子供の医療費ワンコイン制度を高校生まで拡大するなど子育て支援策を大幅に拡充しています。

子育て支援も重要ですが、視点を変えれば、子供を産みやすい環境ではないということも問題なのではないでしょうか。親世代と比べると出産費用が高く、この対応として市からの助成金も増えてはいますが、その分出産費用も上がっている現状があります。

また夫婦共働きが増えている今、保育士不足で子供を預けるのが困難な状況も顕在化しています。子供を産む時、そして子供が産まれてからの問題は山積みとなっており、この問題を解決するのは私たち福岡 JC の使命だと考えています。

私自身も 2022 年に第一子が生まれ、今まで見えなかった子供の未来について考えるようになり、子供が産まれるまで、そして子供が産まれ子育てをしていく上で、沢山の問題があるのだと改めて感じました。

これから産まれてくる子供たちのため、そして成長を続けている子供たちのために、福岡のまちを親子、そして家族の笑顔があふれるまちへとしていくために私たちが新たなムーブメントを起こし、必要とされる存在へとなっていきましょう。

## 「ミライへの人財育成」

未来の福岡のまちを作っていくためには子供たちの育成事業は、どの JC でも欠かせない事業の一つではないでしょうか。

今年度は Z 世代、 $\alpha$  世代の子供たちが交流できる青少年育成事業を福岡 JC として構築できればと考えています。Z 世代、 $\alpha$  世代と言われると年齢の幅が広いと感じるかもしれませんが。しかし、この世代の子供たちがこれからの福岡のまちを発展させていくのです。皆さんも子供のころ、お兄さん、お姉さんと一緒に活動を共にした経験があるのではないのでしょうか。世代を超えて何かを一緒に成し遂げることで、世代を問わず子供たちのころを成長させ、それは記憶として残り、大人になった時にその経験を生かし、次の世代へとつないでいけるでしょう。

子供たちを人財へと成長させることが、持続的なまちの発展につながっていくのだとおもうのです。事業を構築、実施していくうえで、Z 世代、 $\alpha$  世代に福岡のまちの魅力をより深く知ってもらい、その経験をまちへと発信していく、JC の事業だからこそ経験できる福岡の魅力を存分に味わえる青少年育成事業を体感してもらい、福岡のまちのさらなる発展に寄与する人財へと成長することを期待しています。

## 「LOM を活性化するための人財育成」

全国的に入会 3 年未満の JC メンバーが増加傾向にあり、メンバー数は減少傾向にあります。昨年福岡ブロックでは JCI 糟屋が誕生しましたが、消滅を検討している LOM、統合する LOM も少なくはないと実感しています。

福岡 JC も 35 年前前の全国大会の時には約 400 名の会員がいました。現在では 200~250 名の会員数をいったりきたりという状況です。そのためここ数年では拡大の設定人数を高くし、各

委員会のノルマも高くなってきているようにおもいます。

全国大会を開催する年だから、拡大や研修をやらないというのも選択肢の一つですが、今年だからこそ経験できることも大いにあるのではないのでしょうか。全国大会を準備、実施していく過程を肌で感じてもらうことで、JCに入会したい若い人財を発掘できるかもしれません。そして全国大会を実施することでJCに興味をもってくれるひとたちもいるかもしれません。

全国大会を開催する年だからこそできる拡大のやり方、研修の在り方を模索しながら、確かな目標を定め、JCを自慢できる組織、JCに自ら入りたくなる組織へと変化させて行けるきっかけにしてほしいとおもいます。

## 「環・ミライへ」

国際的で機能的な都市を目指す福岡から、“新しいかたちの未来都市を築きたい”

そんなおもいから創立70周年を迎えた福岡JCは、本年度「環・ミライへ」というスローガンを掲げ、ひととまちをつなぐムーブメントを起こします。

「環(かん)」とはひとと地域をつなぐ輪でありリンクです。地域というエリアを超えて、福岡から全国へ、さらには世界へと広がる想いを込めました。

「ミライへ」は現在から将来へと続く豊かな未来の実現を表現しています。エリアを超えて、時を超えて、活気あふれる社会づくりに貢献したいと考えています。

将来を担う子供たちのために、そして安心して暮らせる社会環境づくりのために、私たち福岡JCは、あふれる若き情熱で、さまざまな分野で活動に取り組みます。

## エリアを超えて、明日へ！

## グローバルにひととまちをつなぐ！

## 「最後に」

全国大会の年、今年度でしか経験できないことがきっとあるはず。

そしてひととして成長できる多くの機会と学びがあるはず。

失敗してもいい、それを成長につなげることができるのもJC。

家族、会社そしてひととのつながりを大切にしながら、

今年は例年以上に本気でJC活動に取り組んでいこう。



理事長  
石坂 泰三  
President  
Taizo Ishizaka



直前理事長  
前川 裕貴  
Immediate Past President  
Hiroki Maekawa



全国大会実行委員長  
(副理事長待遇常任理事)  
中原 壮一郎  
National convention Director  
Vice President status  
Soichiro Nakahara



副理事長  
尾本 勝征  
Executive Vice President  
Katsumasa Omoto



副理事長  
堤 祐一郎  
Executive Vice President  
Yuichiro Tsutsumi



副理事長  
榊 洋章  
Executive Vice President  
Hiroaki Sakaki



副理事長  
古田 真幸  
Executive Vice President  
Mayuki Furuta



副理事長  
原 翼  
Executive Vice President  
Tsubasa Hara



専務理事  
吉田 豊  
Senior Executive Director  
Yutaka Yoshida



監事  
水崎 浩二  
Auditor  
Koji Mizusaki



法制顧問  
阿部 健太郎  
General Legal Counsel  
Kentaro Abe



法制顧問  
奥膳 和時  
General Legal Counsel  
Kazutoki Okuzen



財政顧問  
伊 東 健太郎  
Treasurer  
Kentaro Ito



財政顧問  
三 浦 隆 祐  
Treasurer  
Ryusuke Miura



事務局長  
佐 伯 公 大  
Secretary-General  
Kimihiro Saeki



常務理事  
小 木 曾 圭 太  
Managing Director  
Keita Ogiso



常務理事  
小 菅 良 助  
Managing Director  
Ryosuke Kosuga



セクレタリー  
牛 島 淳 嗣  
Secretary  
Junji Ushijima



セクレタリー  
樋 口 洸 太  
Secretary  
Kota Higuchi



セクレタリー  
前 田 幹 太  
Secretary  
Kanta Maeda



室 長 甲 木 正 孝

## ●基本方針

いよいよ35年ぶりの全国大会開催が来年10月に迫ってまいりました。全国大会推進室としては、実行委員会の運営と、シニアの方々や行政などの関係各所との連携を図り、全国大会を成功に導いていくのが使命です。

全国大会には様々な益が存在しますが、主管益、地域益を特に意識した大会構築を進めて参ります。まずは主管益として、我々福岡JCメンバーがこの全国大会の機会を通して何を得るのか。メンバー個人個人の成長、地区ブロックや行政との連携の強化、LOMとしての結束、一つ一つの行動に全てに意味を見出し、この機会をLOMのために最大限活用致します。そして、地域への発信です。我々が福岡のミライをどう描くのか、それを全国のJCメンバーや行政、街の人にどのように発信をしていくのか。街の変化を加速させる機会とするのが目標です。

全国大会は決して楽なものではないと思います。しかし、この好機が巡ってくるのはまた30数年後かもしれません。2024年度、幸運にもLOMに所属をする全メンバーを巻き込み、一人ひとりが当事者意識を持ち、全国大会を主管して良かったと全メンバーに思ってもらうことを目指し、推進室だけではなく、LOM全員の力で全国大会を共に成功に導いてまいります。

# 全国大会推進委員会

## 委員会スローガン【Be Proud of Yourself～自分を誇れる人であれ～】



委員長 加地 優紀  
副委員長 千代田 明久  
拡大総括幹事 中村 正史  
運営幹事 舩田 和博  
会計幹事 池田 翔一  
広報幹事 松山 馨  
倉掛 裕輔  
亀井 亮太  
高島 恒  
中間 悠介  
濱野 雅行  
正岡 憲  
松岡 健太  
村津 万里

### ●基本方針

本年度、福岡JCは35年ぶりに第73回全国大会を主管いたします。2021年度に主管することが決まり、ここまで計画してきたことを、いよいよ実行に移す1年となりました。当委員会では、実行委員会との連携を図り、進捗状況を把握し円滑な運営に努めてまいります。また、実行委員会の情報をLOMメンバーに共有することで、誰も取り残さない全国大会運営を実現していきたいと考えています。その上で、福岡ならではのおもてなしの精神を随所に散りばめた設えを、LOM一丸となって形にしていきます。その為には、行政・各種団体・企業とも連携を取りながら、福岡市民にも関心を持ってもらえるような活動を行ってまいります。また、副主管をお願いする皆様のもとへ足を運んでのご案内、ご協力の依頼をさせていただき、今まで以上の連携強化を図ってまいります。そして何より、この福岡の地に、全国のJCメンバーにお越しいただくために、キャラバンを実施し参加促進につなげる必要があります。

全国大会とは、全国のJCメンバーの卒業式の場合ではありません。5益（主催者・主管・参加・地域・社会）と称されるプラスの面もあります。しかしそれだけではなく、全てのメンバーが、全国大会を成長の機会と捉え、自主的な行動を起こすことで、ひとやまちへの想いをより強めていくことを目指していきます。全国大会が福岡JCにとっても、大きな成長の機会となるよう取り組んでまいります。

最後に本年度は、なぜあなたはJC活動をしているのか？JC活動を通じてどのような成長を遂げていきたいのか？という問いを投げかけ、常にメンバーと向き合っていきます。壮年期に、青年を名乗っている以上、青年以上に青年らしく、がむしゃらにチャレンジし運動や事業を作り上げていく。夢を語り、夢に向かって全力で邁進できる、そんな委員会運営を行ってまいります。自分の行動、言動に誇りを持ち、しっかりと胸を張って、全国大会福岡大会で、全国のJCメンバーをお出迎えしたいと思います。

### ●事業計画

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。

全国大会運営会議と連携して、議案の上げ。

10地区のキャラバンを実施。

メンバーを巻き込む為、毎月の委員会進捗報告を行う。

#### ◇通常例会の企画・実施（8月）

〈目的〉10月に迫った全国大会へのLOM全体の決意を、全国の青年会議所メンバーへ示すこと。

〈方法〉全国大会直前のため、日本青年会議所との協議のうえ、決起大会などに変更するか確認し大会成功の機運を高めるような設えを行い、LOM内外に向けて発信する。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2023年				
11月		釜山JC周年	6月	□討議□協議（8月通常例会） 香港シティJC周年 ASPAC（カンボジア） オールメンバーの集い ブロック大会（田川）
12月			7月	□討議□審議（8月通常例会） サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2024年				
1月		新春例会 京都会議	8月	九州コンファレンス（霧島）
2月		第3エリア合同例会	9月	
3月			10月	全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月			11月	世界会議（台湾）
5月		トリオ会議 下関JC周年 JCI広島定期交歓会	12月	卒業生を送る夕べ



室長 上田久紀

## ●基本方針

福岡JCにおいて、青少年育成を目的とした活動は脈々と受け継がれてきたものであり、大きな柱の一つとなっています。本年度、我々子ども未来室ではZ世代とα世代の世代間の交流をもってFUKUOKAのまちをけん引する次世代のリーダーを育て参ります。さらに、リーダーへと育つ子どもたちが生まれるまでの環境にも目を向け、親と子どもが住み暮らしやすいFUKUOKAとなるべく、運動を展開して参ります。

少子高齢化、人間関係の希薄化などが叫ばれて久しい昨今、この福岡においても例外ではありません。人口増加率は全国一位であるものの、政令指定都市の中では合計特殊出生率は低い位置で推移している現状があります。そして、すでに課題であった世代間や人間関係の希薄化がさらに加速しています。しかし、このような時代だからこそJCが立ち上がるべきであり、運動展開のチャンスと考えます。行政の手が届きにくいところに、JCらしい切り口で、JCでしかできない経験をもって運動を展開して参ります。人びとの声を聞き、行政や関係各団体をも巻き込み運動を展開することで、必ずやFUKUOKAの発展につながると考えています。そのために本年の活動が次世代のリーダーと、さらにはリーダーとなるべく生まれてくる子どもたちのために必要であったと思っただけのよう、走り続けて参ります。

# チャイルドケア活性化委員会

## 委員会スローガン【身近な人、つながりを大切に】



### ●基本方針

2007年より65歳以上が全人口に対して21%を超える「超高齢化社会」に突入しているなかで、全国の子どもの出生率は7年連続で減少しております。福岡県は全国的にみても出生率は低い方ではありませんが、少子高齢化は軽視できません。このままでは社会保障制度においても2060年には高齢者1人に対して、約1人で支えて行かなければならない「肩車社会」が到来し、今の子ども達の負担が甚大になるのも明らかとなっております。家庭の問題だけではなく、行政や団体と情報の共有・連携を図ることにより、より大きな波及効果も必要だと考えます。

福岡市は独自に保育士の募集に対して条件的な支援を行っているのにも関わらずなかなか確保できない問題や、福岡県は共働き世帯が多いことから生じる問題なども山積しております。当委員会としましては、親子が笑顔あふれる住み暮らしやすいまちになるべく事業を行っていき、経験した内容を事業や委員会に留まらず、今後も周りに発信していけるようにします。そして事業をとおして福岡JCだけでなく、福岡に住み暮らす市民が問題意識を持ち、次の行動へと移していけるようにつないでいきます。

本事業をとおして委員会メンバーに対しては当事者意識を持って取り組み、日頃得ることができない機会による経験をする事で、今後の人生においてかけがえのないものとしていきます。スローガンでもあります【身近な人、つながりを大切に】は、家族や会社の人だけでなく、委員会メンバーが互いに大切に想い行動し、率先的に行動することによってメンバーの成長や結束、福岡JCの中核を担うメンバーの成長へとつないでいきます。全国大会において、様々な人や団体からの支えがないと大成功を収めることはできません。全国大会をとおしてつながりを体感しながら、全国大会後もそのつながりを大切に強固にしていくことで、福岡JCの基盤をより強固に行ける人材を輩出してまいります。

最後に、メンバーに対して支えて頂いている人や出会いや想いを大切にしていきながら、今度はメンバーが誰かのために支え、次の世代へとつないでいき、共通の目標に向け一致団結し、1年を通して一皮も二皮も剥けるような委員会運営を行ってまいります。

### ●事業計画

#### ◇親、子どもの住み暮らしやすい福岡を活性化していく事業の実施

〈目的〉親子が今後も安心して住み暮らせるまちを創出すること。

〈方法〉子育て世代・行政への調査し、解決またはきっかけとなる事業を実施すること。

#### ◇公開例会の実施（4月子ども未来室合同開催）

〈目的〉子育て環境、青少年の育成に関する現状を周知すること。

〈方法〉有識者を講師としてお招きし、課題や取り組みを講演していただくこと。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会進捗報告を行う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員長	鶴	和 晃
副委員長	西 方	亮 祐
拡大総括幹事	松 田	敦 朗
運営幹事	吉 山	慎 一
会計幹事	楠 原	さつき
広報幹事	永 松	英 知
	内 野	蓉 子
	古 賀	彩 華
	那 須	亮 太
	玻 座	真 彩
	船 越	幹 治
	古 本	美 由 紀
	三 浦	匠
	村 上	瑠

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事	上程スケジュール	行 事
2023年				
11月		釜山JC周年	6月	□討議□協議□協議□審議（チャイルドケア活性化事業 報告） 香港シティJC周年 ASPAC（カンボジア） オールメンバーの集い ブロック大会（田川）
12月			7月	サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2024年				
1月	□討議□協議（4月度合同公開例会計画）	新春例会 京都会議	8月	九州コンファレンス（霧島）
2月	□討議□審議（4月度合同公開例会計画） □討議□協議□協議□協議（チャイルドケア活性化事業 計画）	第3エリア合同例会	9月	
3月	□討議□協議□協議□審議（チャイルドケア活性化事業 計画）		10月	全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月		4月度合同公開例会	11月	世界会議（台湾） JCI釜山周年
5月	□討議□審議（公開合同例会 報告）	下関JC周年 JCI広島定期交歓会 トリオ会議 チャイルドケア活性化委員会 事業	12月	卒業生を送る夕べ

# Z & α 総活躍委員会

## 委員会スローガン【走りながら考える】



委員長 森 重樹  
副委員長 坂田 裕之  
拡大総括幹事 羽川 礼華  
運営幹事 浦 佑希  
会計幹事 高田 諭  
広報幹事 吉田 伸彦  
秋月 早美  
牛島 啓慈  
島田 優  
下坂 豪太郎  
永松 賢二  
野上 俊彦  
本園 和夫  
諸留 佑介  
笠 健太郎

### ●基本方針

人口減少、少子化が最重要課題の一つである我が国において、福岡市は人口増加数、増加率ともに全国に20ある政令指定都市の中でも1番を誇っています。また、10代・20代の若者が人口を占める割合が最も高く、これもまた福岡市の強みと言えます。

子どもたちと若者は、大人とともに社会を構成する一員であり、次世代の成長こそがこの国の成長そのものです。子どもたちが豊かな人間性を形成し、主体性、想像力を育てていくことが、将来の福岡のまちをさらに発展させていくこととなります。

現代のネット社会において、子どもたち、若者を取り巻く環境は急速に変化を続けています。インターネット、スマートフォンが生まれた時から身近にあり多くの情報が必要な時に得ることができ、ネットでは誰かと容易に繋がることができるようになりました。利便性が進む一方で「リアルな人間関係の希薄化」が叫ばれています。変化の激しい時代において、学校、家庭では対応しきれない課題にこそ我々、福岡青年会議所にできることがあります。

今年度、当委員会はZ世代、α世代を対象に世代を超えて交流できる青少年育成事業を行います。人間関係の希薄化が叫ばれている今だからこそ世代を超えてリアルで交流を行うことで、Z世代には次世代のリーダーとしての自覚を与え、α世代にはその背中を見て、感じ、憧れを与え、未来のFUKUOKAのまちを担う人財へと成長する「環」の機会を寄与していきます。

また、35年ぶりに福岡の地で開催される全国大会においては全国の青年会議所の皆様に喜んでもらえるようメンバー一丸となって準備を進めて参ります。この全国大会を通し、委員会メンバーの絆が深まり、また福岡青年会議所がさらに強固な団体になるよう邁進します。

最後に、限られた時間の中で今しかできないこの一瞬のJCをメンバー一人ひとりにとってかけがえのないものなるよう一致団結し、本気で目標に向き合い、どんな状況でも仲間共に走り続け、倒れても、すぐに起き上がり走り出す、そのような委員会運営を行っていきます。苦楽を共にすることで真の友情を芽生えさせ、一生の仲間が生まれる委員会を創っていきます。

### ●事業計画

#### ◇Z世代及びα世代（小学生～大学生）に対する育成事業の実施

〈目的〉Z世代には次世代のリーダーとしての自覚を与え、また、α世代はその背中を見て、感じることで未来のFUKUOKAのまちを担う人財へと育成する礎を築くこと。

〈方法〉子ども、若者の現状と課題を調査研究し、FUKUOKAの発展に繋がる人財育成の事業実施。

#### ◇公開例会の実施(4月子ども未来室合同開催)

〈目的〉子育て環境、青少年の育成に関する現状を周知すること。

〈方法〉有識者を講師としてお招きし、課題や取り組みを講演して頂くこと。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会に進捗報告を行う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年 11月		釜山JC周年	6月	□討議□審議□協議□審議(事業報告)	香港シティJC周年 ASPAC(カンボジア) オールメンバーの集い ブロック大会(田川)
12月			7月		サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2024年 1月	□討議□協議(4月度合同公開例会計画)	新春例会 京都会議	8月		九州コンファレンス(霧島)
2月	□討議□審議(4月度合同公開例会計画) □討議□協議□協議□協議(事業計画)	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議□協議□審議(事業計画)		10月		全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月		4月度合同公開例会	11月		世界会議(台湾) JCI釜山周年
5月	□討議□審議(4月度公開合同例会報告)	JCI福岡周年 広島定期交歓会 トリオ会議 Z&α総活躍委員会事業実施	12月		卒業生を送る夕べ



室長 大幡 則文

## ●基本方針

福岡は魅力あふれるまちです。交通の便も非常によく、スポーツ、芸術、食、音楽そしてお祭りなどが、地域に文化として根付いていて、人々を引き付けます。アジアの玄関口とも呼ばれ日本人だけでなく、多くの外国人観光客や居住者もいます。

しかし、これだけの魅力をもちながら、それを最大限に発信できているでしょうか。県内外、そして海外からも観光をはじめ、ビジネス交流など様々な目的で福岡を訪れる人々はいます。魅力発信室は、その方たちにガイドブックには載っていない、当初の目的以上の新たな魅力を感じていただき、福岡にもう一度訪れたい、住みたいと思ってもらえるような事業を構築していきます。

福岡市が目指す「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」の実現に向けても、単に観光や働く場としてだけではなく、XGAMESなどの国際的な大会の開催地となるような福岡のブランディングを行い、グローバル都市としての地位を確立させることが必要です。

グローバル都市発信委員会と地域の魅力発信委員会が、「アジアNo.1都市」と自他ともに認めるFUKUOKAにするために、福岡の魅力を効果的に世界へ発信する活動を行ってまいります。

# グローバル都市発信委員会

## 委員会スローガン【人に尽くす】



委員長 本間 晃平  
副委員長 高山 伸太郎  
拡大総括幹事 成富 崇智  
運営幹事 宮崎 祥平  
会計幹事 石川 卓弥  
広報幹事 黒木 祐太  
甲斐 祐樹  
河野 秀平  
瀬尾 昂平  
平松 雅敏  
間嶋 弘幸  
松岡 大輝  
三重野 翔太  
峰崎 悠

### ●基本方針

福岡市には現在、4万人を超える外国人が住んでおり、熊本県へのTSMCの進出を始めとした国内外の企業の進出や労働力不足による外国人雇用も増加していくことが予想され、今後ますます福岡市に外国人居住者が増えていくことが考えられます。

そんな中、私たち福岡市民は異国の文化や習慣を十分に理解し、異なる価値観を受け入れているでしょうか。また、福岡市に住み暮らす外国人は福岡の文化や魅力に触れているでしょうか。そして、その家族は地域に打ち解けることができていますでしょうか。

言語や慣習など様々な理由からくる見えない壁が、異文化交流を遮るきっかけとなっている現状があります。今後、福岡市がよりグローバルな都市へと発展していくためには、まず私たちが様々な国の文化や習慣を学び受け入れることが必要です。そして、改めて福岡の文化や魅力を知り、理解し、誇りに思うこと。そうすることで、さらなるグローバル化が実現していくと考えます。

また、姉妹JCであるサウスサイゴンJCとの連携もさらに強化していきます。これまで、周年事業での交流がメインとなってきましたが、本年は周年事業以外での交流の機会を創出することで、これまで関わりの無かったメンバーは国際交流の関心を訴求させ、既に関わりのあるメンバーはさらに関係性や連携を深め、LOMの強化と発展に努めます。

この1年間で、メンバーが国際の機会に触れ、自らが異国の地に訪れる経験を通して成長し、LOMに波及させることで、福岡青年会議所がよりグローバルな団体へと進化するきっかけを作ります。委員会運営や事業構築を通しメンバーが成長し、仕事や家庭においてもこの経験を活かし、さらに前向きにJC活動・運動に取り組むことで、福岡市の発展にも貢献していきます。

### ●事業計画

#### ◇グローバルシティを推進していく事業の実施

〈目的〉「国際都市FUKUOKA」福岡市を世界の玄関口へと推し進めるきっかけをつくること。

〈方法〉異国の文化や習慣を学び・多文化交流を図ることで相互理解を深めていくこと。

#### ◇世界会議（台湾）への参加促進

〈目的〉世界会議に参加することで、よりグローバルな視点を身につけること。海外LOMとの連携の強化。

〈方法〉世界会議の内容を発信し、参加することの意義を伝え、多くのメンバーに世界会議へ参加していただけるよう発信していく。

#### ◇ASPAC（カンボジア）への参加促進

〈目的〉ASPACに参加することで、よりグローバルな視点を身につけること。海外LOMとの連携の強化。

〈方法〉ASPACの内容を発信し、参加することの意義を伝え、多くのメンバーに世界会議へ参加していただけるよう発信していく。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。

10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会で進捗報告を行う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年					
11月		釜山JC周年	6月		香港シティJC周年 ASPAC（カンボジア） オールメンバーの集い ブロック大会（田川）
12月			7月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2024年					
1月		新春例会 京都会議	8月		九州コンファレンス（霧島）
2月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		10月		全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月			11月		世界会議（台湾）
5月		事業実施 下関JC周年 広島定期交流会	12月		卒業生を送る夕べ

# 地域の魅力発信委員会

## 委員会スローガン【Let's try anything】



### ●基本方針

これまでの生活を取り戻しつつある現在、福岡市では都市経営の基本戦略「都市の成長と生活の質の向上の好循環の創出」に沿った様々な施策を展開しています。観光客数や立地企業数などが伸び、その結果、市税収入や雇用が増加し、住みやすさに対する市民評価、市政への信頼度も向上し、世界で最も住みやすい都市ランキングでベストテンに選出されており、『人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市』の実現に向けて、基本戦略に掲げる「好循環」を加速させるとともに、福岡市を次のステージへと押し上げるためのチャレンジ「FUKUOKA NEXT」を全力で推進しています。しかし現状としては若い都市を掲げている一方、すでに29歳以下の人口は減っています。2045年までに65歳～74歳が1.5倍に、75歳以上は2.5倍になると予想されています。郊外では市域コミュニティの希薄化、働き手や継承者の減少、遊休農地や空き家の増加など、まだまだ問題点や課題が多い都市でもあります。市民がもめていることは何か。行政の手の届かない所は何か。様々な人々が魅力を感じ、明るい豊かな社会を実現するためにはあらためて福岡を知り、抱えている課題や問題を調査研究し福岡の魅力を発信していく必要があります。

当委員会では福岡のまちを人と環境と都市活力の調和がとれたアジアNO.1都市へと進化させるため、福岡のまちを知り歴史や伝統文化をより調査研究し、問題解決のためにまちの魅力を発信することで産学官民の連携の強化や各々の分野での進化・変化のきっかけを作ります。それが福岡JCの挑戦する新しい魅力あるまちづくり、恵まれた環境をもつ福岡の未来発展へと繋がると考えています。

1年間を通し委員会メンバー全員が何事にも挑戦できるように誰よりもメンバーの事を考え、事業を通して意識を高め一人ひとりが輝き、魅力を発揮するだけでなく、メンバー同士が絆を深め、青年経済人としてさらなる成長へとつながる委員会運営を行います。

### ●事業計画

◇産学官民と連携しながら福岡の魅力を発信していく事業の実施。

〈目的〉産学官民の連携の強化や各々の分野での進化・変化のきっかけをつくること。

〈方法〉福岡が抱えている課題や問題を調査研究し、産学官民と連携して福岡のまちの魅力を発信する事業を実施。

◇福岡ブロック大会（田川）への参加促進

〈目的〉ブロック大会に参加することで機運を高め、これまで以上の連携を図ること。

〈方法〉LOMメンバーへブロック大会の意義を伝え、積極的な参加促進を行う。

◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。

全国大会運営会議と連携して、議案の上げ。

10地区のキャラバンを実施。

メンバーを巻き込む為、毎月の委員会では進捗報告を行う。

◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

委員長 後藤 雄 治  
副委員長 松元 和 洋  
拡大総括幹事 安良岡 成 晃  
運営幹事 入江 賢 賢  
会計幹事 工藤 大 明  
広報幹事 竹田 一 国  
進藤 貴 聡  
河面 洋 平  
近藤 瑛 理  
近永 征 也  
野元 優 優  
服部 慎 吾  
平野 由 衣  
山口 望

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年 11月		釜山JC周年	6月		事業実施 香港シティJC周年 ASPAC (カンボジア) オールメンバーの集い ブロック大会 (田川)
12月			7月		サマーコンファレンス (横浜) 国際アカデミー
2024年 1月		新春例会 京都会議	8月	□討議□審議□協議□審議 (事業報告)	九州コンファレンス (霧島)
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□協議□協議□協議 (事業計画)		10月		全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月	□討議□審議□協議□審議 (事業計画)		11月		世界会議 (台湾)
5月		下関JC周年 広島定期交歓会	12月		卒業生を送る夕べ



室 長 立 部 真 康

### ●基本方針

FUKUOKAを創造する。

【創造】とは、「新しいものを生み出す」ことであり、古来より福岡では国際都市として栄え、海外の多種多様な新しい文化を受け入れ吸収することで、生活を豊かに発展を続けてきました。先人たちの築いてきた魅力溢れる福岡であり続けるためにも、我々青年が常に新しい文化を発信し続けまち全体に根付かせることで私たちの愛するFUKUOKAを更に豊かにしていくことが必要不可欠ではないでしょうか。

福岡では人口増加による発展を続けていますが、国内を見ると少子化が進み、人口増の生産性を求める社会から、人口減による効率化を求める社会へと変わりつつあり、時代が移り変わる中、地域コミュニティ意識の衰退による人間関係の希薄化、価値観の多様化が進む現在を生きる若者たちが今、何を求め何に魅力を感じるのかをあらためて知ることによってFUKUOKAの新しい文化を創り、まちの未来に新たな光を照らしていきます。

FUKUOKA創造室では、スポーツ文化創造委員会と芸術文化創造委員会が、福岡の未来を担う子供たちを想い率先して行動することで、子どもたちの豊かな感性を磨いていける新たなアート文化、スポーツ文化を生み出し、まち全体に根付かせ、福岡が更に魅力溢れるまちとなるべく運動を邁進してまいります。

# 芸術文化創造委員会

## 委員会スローガン【人生は一度きり】

### ●基本方針

文化とは、自然とのかかわりや風土の中で生まれ育ち身に付けていく立ち居振る舞いや、衣食住をはじめとした暮らし、生活様式、価値観など、人と人の生活にかかわることで生み出されます。ですが、近年は人との関わりというものが、希薄になってしまい、子どもの頃に磨かれていくべき感性が乏しくなってしまい、新しい文化が生み出されていません。福岡では根付いた、文化はありますが、それは先人たちが残してきたものです。

これから福岡のまちが更に発展していくためには、新たな芸術文化を根付かせ、世界に発信していくこと。新しい文化の実現において、芸術は必要不可欠で、まちの新しい光にしていかなければならない。実現する為には、身近にアートをみることができ、触れる機会を増やし「イマジネーション」を高めていかなければならない。

芸術には誰もが思いつく当たり前のことではなく、豊かな感性を磨いていくことで福岡のまちの新しい文化を作ることができます。事業を通じて、市民一人ひとりが豊かな感性を磨き、これからの福岡のまちに必要な文化を一人ひとりが考え、福岡のまちの未来を考えていく「イマジネーション」で新しいアート文化が生み出されていくように機運を高めます。

最後に芸術文化委員会では、「人生は一度きり」のスローガンのもと、人生において無駄なことはなく、無駄と思っていたことこそ、後になると大切なことだったりします。特に誰かのために行動することに無駄はありません。

だからこそ、答えを求めて、行動するのではなく、今しかできないこと、自分にはできないことに何事にも立ち向かっていく機会を作ります。そんな機会は何度もあるようで、人との関わり方で違うものになります。その自身の関わりが一生忘れられない出来事になり、一生笑いながら語ることができます。委員会メンバー一人ひとりが、「誰かのため」「まちのため」に本気で行動することができ、福岡JCでの活動・運動を、家族や会社の人、その活動を福岡の市民に誇ることができる委員会を作って参ります。

### ●事業計画

#### ◇公開例会の実施(5月)

〈目的〉芸術から生み出される新しい文化を感じてもらうこと。

〈方法〉芸術文化に精通している有職者を講師として、お招きし、如何にして豊かな感性を磨くことができるかの講演をいただく。

#### ◇アートを活用したまちづくり・ひとづくり事業の実施

〈目的〉福岡出身の若手アーティストの「イマジネーション」を感じてもらう。

〈方法〉福岡出身の若手アーティストの現状を調査・研究し、如何の「イマジネーション」から生み出され、そこから生まれたアートで感じてもらえる環境を創出する。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。

10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会で進捗報告を行う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。



委員長 小柳 佑貴  
副委員長 菅原 是道  
拡大総括幹事 池田 拓史  
運営幹事 合谷 賢太  
会計幹事 宮内 貴仁  
広報幹事 最所 隼人  
石田 光彦  
佐藤 大輔  
津田 浩之  
坪井 智之  
中野 連吾  
野満 圭介  
松村 裕康  
吉永 有里  
米村 祐太

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年 11月		釜山JC周年	6月	□討議□審議(5月度講師公開例会報告)	香港シティJC周年、事業実施 ASPAC(カンボジア) オールメンバーの集い、トリオ会議 ブロック大会(田川)
12月			7月	□討議□審議□協議□審議(事業報告)	サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2024年 1月		新春例会 京都会議	8月		九州コンファレンス(霧島)
2月	□討議□協議(5月講師公開例会計画)	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議(5月講師公開例会計画) □討議□協議□協議□協議(事業計画)		10月		全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月	□討議□審議□協議□審議(事業計画)		11月		世界会議(台湾)
5月		5月公開例会実施 下関JC周年 広島定期交歓会	12月		卒業生を送る夕べ

# スポーツ文化創造委員会

## 委員会スローガン【気は心】



委員長 馬場 秀一  
副委員長 浦田 慎也  
拡大総括幹事 寺内 享忠  
運営幹事 加地 英紀  
会計幹事 田中 海人  
広報幹事 山田 哲也  
井ノ口 翼  
尾花 一樹  
川添 裕土  
坂元 太施  
重松 祐樹  
針尾 洋平  
薬師 雅実

### ●基本方針

スポーツには、する人に楽しさと喜びを与え、応援する人には夢や勇気、感動を与えまちを元気にします。福岡では野球やサッカー、バスケットなど、数多くのスポーツが地域に根付いており、福岡市民に多くの勇気と感動を与えてきました。その一方で家庭環境の変化や価値観の変化、スクリーンタイムの増加が心身の健康に悪影響があるとされ、子供たちの体力や運動能力の低下が懸念されています。福岡市においては、「福岡市スポーツ推進計画」などスポーツの推進に力を入れており、あらためて新たなスポーツ文化を地域に発信する必要があります。

スポーツに力を入れ、取り組む地域、団体、行政や民間企業も多く存在し、我々福岡JCの持つ情熱と行動力でそれらを巻き込む事で産学官民の垣根を超え、子どもたちの豊かな感性を伸ばす新しいスポーツ文化を築き上げていきます。また、子どもたちが感性を磨く環境を整えるために子どもたちにスポーツに触れていただく機会を提供し、楽しさや喜び、夢や希望を持ってもらえるような事業を展開し、まちの未来に新たな光を照らしていきます。そして、新たなスポーツ文化の確立を通じて、福岡から全国、そして世界に羽ばたくような人材へと成長し、将来、地域に夢と希望を与えるような、スポーツの持つ無限の可能性を実感していただきたいと考えています。

最後に、スポーツ文化創造委員会では、人を想い行動することの大切さを胸に、福岡の未来を担う子どもたちのために委員会メンバーと共に積極的に実践することで委員会メンバー全員の成長へとつなげていきます。先輩方から脈々と引き継がれてきた無償の愛と想いを大切に、古き良きJCと、新しい形のJCを積極的に取り入れながら福岡青年会議所の楽しさを肌で実感できる委員会運営を行い次世代のリーダーを育成してまいります。

### ●事業計画

#### ◇スポーツを活用したまちづくり・ひとづくり事業の実施に関する事項

〈目的〉スポーツ文化の魅力と知識を広く発信し、スポーツを通じて感性を磨いてもらう。

〈方法〉スポーツ文化の歴史、伝統、文化を調査・研究し、魅力的なスポーツ文化の可能性を体験していただく機会を提供する。

#### ◇公開例会の実施（3月）に関する事項

〈目的〉スポーツの力がまちを活性化させるという意識を持ってもらう。

〈方法〉スポーツの発展に一石を投じられた講師を選定し、スポーツの持つ力や魅力を発信していただく。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会では進捗報告を行う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大に関する事項に関する実施

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年					
11月		釜山JC周年	6月		香港シティJC周年、トリオ会議 ASPAC（カンボジア） オールメンバーの集い ブロック大会（田川）
12月	□討議□協議（3月度公開例会計画）		7月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2024年					
1月	□討議□審議（3月度公開例会計画）	新春例会 京都会議	8月		九州コンファレンス（霧島）
2月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）	3月公開例会実施	10月		全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月			11月		世界会議（台湾）
5月	□討議□審議（3月度公開例会事業報告）	事業実施 下関JC周年 広島定期交歓会	12月		卒業生を送る夕べ



室 長 田 雑 嘉 貢

**●基本方針**

私たちはこれまで先輩方が築き上げてきたものを次世代に繋いでいく必要があります。その為にも、福岡JCの魅力を発信し未だ見ぬ同じ志を持った同志を拡大し研修していくことが重要です。

将来の福岡JCを担う人材を発掘し育成することこそが私たちに与えられた使命です。LOM推進室では会員拡大委員会と研修委員会が密に連携する事で同じ方向性を進むことができます。

本年迎える全国大会福岡大会の過程を通し、体感してもらうことでJCメンバーのJC活動に対するマインドを向上させ、全国大会を実施することでJCに興味をもってくれる人たちを増え拡大につなげることができると思います。

全国大会を開催する年だからできる拡大の方法、研修の在り方を試行錯誤し、目標達成に向け、まちに誇れるJC、憧れられるJCへと成長させるきっかけにしていきます。

JCは機会で溢れている。その機会を前向きな姿勢、能動的に経験することで自己成長のチャンスに変化することが出来るJCの素晴らしさをしっかりと理解していただき、これまでの伝統は大切に守り(継承)時代の変化と共に変えるべきところは積極的に変えていく(進化)これを念頭におき活動していきます。

# 会 員 拡 大 委 員 会

## 委員会スローガン【組織活性化～team activation～】



委員長 高山 剛  
副委員長 中川 昂大  
拡大総括幹事 西口 昌宏  
運営幹事 坂下 利一郎  
会計幹事 小池 直人  
広報幹事 三上 滉貴  
安部 亮二  
安澤 慎司  
今宮 誠司  
木下 雅俊  
坂梨 高介  
新納 裕美子  
林 美奈  
松尾 恵介  
吉村 稔

### ●基本方針

福岡青年会議所が継続して活動していく為に会員拡大は必須になります。後継者不足、少子高齢化等の様々な社会情勢の中、会員数はここ数年停滞傾向にあります。しかし組織の現状維持は衰退の始まりです。

単年度制の中で、会員拡大だけは中長期的なビジョンで進めていかないといけないのではないのでしょうか。人数の維持やただ増やして膨張していくのではなく、私たち福岡青年会議所が街に人に必要とされる存在であり続ける為に同志を集い拡大していく必要があると考えます。仲間の事を考え行動することによって街の為に、街の為に考え行動することによってこの街に住む大事な人の為になる。その結果自身の器を拡張し、今まで以上に家族に会社に自身の大事な人に還元できる自分になれる。

自己成長したい、本気で仲間に今以上に良くなってもらいたい、本気で自分たちが住むこの街を良くしたい。そんな思いをもった同志を拡大し福岡青年会議所の基盤作りの礎を作ってまいります。本年度、拡大目標を100名(仮入会)とし、5年後10年後を見据えた人材の発掘という多角的な視野をもち拡大計画を策定のうえ実行していきます。

また次年度以降さらに拡大が福岡青年会議所全体で効果的に実施できるように会員拡大アプローチマニュアルを活用及び改良するとともに、福岡青年会議所全体で拡大がスムーズに実施できるようメンバーに落とし込みを実施していきます。

委員会メンバー全員で会員拡大の重要性をしっかりと議論し拡大活動に取り組む事。またオールメンバーという機会を通して先輩方との交流をすることで福岡青年会議所の歴史に触れ、委員会メンバーが青年会議所の本質をより知る事で一つ一つの行いや事業に意味づけができ成長に繋げていきます。委員会メンバー全員が一致団結し、一人ひとりが成長を実感できるように愛のあるサポートをしていきます。一年間どうぞ宜しくお願い致します。

### ●事業計画

#### ◇会員拡大の推進

〈目的〉JCI福岡を持続的に運営していくため。

〈方法〉仮入会者100名の会員拡大。会員拡大委員会最低16名の会員拡大、各委員会最低7名の会員拡大。

#### ◇拡大推進会議の設営・運営

〈目的〉LOM全体で会員拡大に取り組むための、拡大情報・進捗状況の共有・確認・依頼を行うこと。

〈方法〉月に一度、理事会前に委員長及び拡大総括幹事を集め拡大に関する会議を実施する。

#### ◇シニアクラブに関する事項

〈目的〉シニア総会開催の補助をし、本会の中で前年度の会計報告ならびに本年度の活動内容をお伝えするとともに交流をとる。またJCI福岡発展の為に拡大の依頼をする。

〈方法〉シニア会長、専務理事、事務局、58年生とも連携をとり、入会の挨拶と還暦のお祝いの設営を行う。

#### ◇オールメンバーの集いの企画・実施

〈目的〉シニアと現役がお祝いをするとともに、より多くの交流を深める機会を創出する。

〈方法〉約1500名の特別会員がいること、その価値・カタチの秘めた可能性を前にだしていけるような設営を行う。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会進捗報告を行う。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年					
11月		釜山JC周年	6月		香港シティJC周年 ASPAC (カンボジア) オールメンバーの集い ブロック大会 (田川)
12月			7月		サマーコンファレンス (横浜) 国際アカデミー
2024年					
1月		新春例会 京都会議	8月	□討議□審議□協議□審議 (オールメンバー報告)	九州コンファレンス (霧島)
2月	□討議□協議□協議 (オールメンバー計画)	シニア総会 第3エリア合同例会	9月		
3月	□討議□審議□協議□審議 (オールメンバー計画)		10月		全国大会 サウスサイドJCI周年
4月			11月		世界会議 (台湾)
5月		下関JC周年 広島定期交歓会	12月		卒業生を送る夕べ

# 研 修 委 員 会

## 委員会スローガン【Always Be Challenger】



委員長 寺田 光 児  
副委員長 柴田 貢  
拡大総括幹事 岡村 悠 矢  
運営幹事 廣田 匡 則  
会計幹事 大和 尚 之  
広報幹事 並松 涼  
市丸 浩 太  
岩下 優 典  
岡崎 竜 也  
崎原 正 吾  
鈴木 優  
千種 祐 香  
中本 雄 斗  
原 誠 一 郎  
横田 銀 次

### ●基本方針

この福岡青年会議所はひとつづくり通してまちが抱える問題やこれからの未来をつくっていく団体です。明るい豊かな社会を築くために日々、修練・奉仕・友情の三信条のもとJC運動を展開しています。JC活動・JC運動を通して様々な機会を体験していくなかで自己成長し、会社や家庭に持ちかえり成長していく必要があります。その成長の先にまちを動かすきっかけになっていただきたいと考えております。

本年度は2024年度全国大会 福岡大会が10月に行われます。この全国大会を迎えるにあたり、本年度の福岡青年会議所はひとりひとりが活発的に活動し全国の青年会議所のメンバーにおもてなしの気持ちを持ち設営に望んでまいります。この機会を大事にし、新入会者や委員会メンバーの意識の変化をもたらしていきたいと考えます。

本年度、研修委員会では仮入会者への指導・研修において出会いや学びを通して、今まで以上に視野を広げ誰かのために、まちのためにと率先して行動できる人材の育成するためオリエンテーションを行います。そして、日々メンバーがどのような所務やまちの課題や問題点にどう向き合っているのかなど新入会メンバーには肌で感じてもらえればと考えております。新入会同期会事業では入会1周年のお祝いをする事で兄弟同期との交流、メンバーみんなとの交流、JCの仕組みを理解して頂きます。

本年度は「Always Be Challenger」＝「常に挑戦者であれ」のスローガンのもと何事にも挑戦し貪欲に前向きに取り組む姿を新入会メンバーに感じてもらいたいと考えております。そこに取り組む委員会メンバーも刺激を受け新入会メンバーと委員会メンバー共に成長できる一年にしていきたいと考えております。そして、この福岡青年会議所での活動において支えてくれているJCメンバー、同期会メンバー、そして家族や会社のスタッフに感謝ができるメンバーを育成していきたいと考えております。一人でも多くのアクティブメンバーを輩出することをお約束いたします。

### ●事業計画

#### ◇仮入会への指導・研修に関する事項

〈目的〉誰かの為に行動する利他の精神を養い、率先して行動できるメンバーの育成し、これからの活動において前向きに行動できる人材の育成。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JC魅力の発信をする。

#### ◇新入会同期会事業に関する事項

〈目的〉新入会者が兄弟同期・同期との絆・メンバーとの交流・JCの仕組みを理解する。

〈方法〉研修委員会の指導のもと、事業構築とルールを学び、一年前に入会した同期会の1周年のお祝いをする。

#### ◇やすらぎ荘を含む障がい児・者支援に関する事項

〈目的〉社会福祉・ボランティア活動を通して、三信条（修練・奉仕・友情）を学ぶ場とすること。

〈方法〉やすらぎ荘の意見を踏まえて、直近の三同期会を中心に事業の企画・設営を行い、LOMメンバー全員に今一度理解してもらう。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会では進捗報告を行う。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年 11月	□討議□協議（前期オリエンテーション事業計画）	釜山JC周年	6月	□討議□審議（前期オリエンテーション事業報告）	中期オリエンテーション① 香港シティJC周年、ASPAC（カンボジア） オールメンバーの強い ブロック大会（田川）
12月	□討議□審議（前期オリエンテーション事業計画）		7月	□討議□協議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□協議（やすらぎ荘事業計画）	オリエンテーション② サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2024年 1月	□討議□討議□討議□討議（ところてん事業計画・ 後期仮入会）	新春例会 京都会議	8月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□審議（やすらぎ荘事業計画）	中期オリエンテーション③ 居酒屋の青春 前期仮入会ところてん事業 九州コンファレンス（霧島）
2月		前期オリエンテーション① 第3エリア合同例会	9月	□討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告・ 前期仮入会）	
3月	□討議□協議（中期オリエンテーション事業計画）	前期オリエンテーション②	10月	□討議□審議（中期オリエンテーション事業報告）	後期仮入会オリエンテーション① 全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月	□討議□審議（中期オリエンテーション事業計画） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告・ 後期仮入会）	前期オリエンテーション③ 居酒屋の青春 2023年後期仮入会ところてん事業	11月		後期仮入会オリエンテーション② 中期仮入会ところてん事業 世界会議（台湾）
5月	□討議□討議□討議□討議（ところてん事業計画・ 前期仮入会）	下関JC周年 広島定期交歓会	12月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業報告） □討議□討議□討議□討議（ところてん事業報告・ 中期仮入会）	後期オリエンテーション③ 居酒屋の青春 卒業生を送る夕べ



室 長 田 原 義 也

## ●基本方針

福岡青年会議所が全国大会を主管するにあたり、35年前とは福岡のまちも福岡青年会議所も、受け継いできたものはあるものの時代の変化に合わせて生活や活動の様式も大きな変貌を遂げています。

全国大会を目の前にして私たちは今一度福岡JCという存在、福岡のまちの魅力を知り、5益の中でも特に「主管益」「地域益」を意識することで今後のJC活動へ繋げていかななくてはなりません。そのためにも福岡JCはメンバーの意識改革、そしてこれまで以上の現役、シニアを巻き込んだ結束力を構築していかななくてはなりません。

その一つが副主管をお願いする皆様との関係性の構築です。この数年で出向に対する意識は前向きになってきているものの、主管するにあたりキャラバンでの参加促進活動にLOM全体で取り組んでいかななくてはなりません。その意識醸成の基盤とするべく理事長の想いをLOM全体に伝え、メンバー一人ひとりが何を成すべきなのかを伝えていく設営が当室の大きな使命のひとつと言えます。

そしてこれまで受け継いできたシニアとの関わり方を、全国大会を機に見直し、未来の福岡JCへ伝統として続いていくようなきっかけになる1年にしなくてはなりません。現役同士の交流はもちろん、シニアとの交流もより強めLOMが一枚岩となって全国大会を、そして来年以降の活動へと繋げていくために、メンバーが一つひとつの活動の意味を知り、参画する機会を醸成していきます。

# 例 会 委 員 会

## 委員会スローガン【grow together ~想いを一つに~】



委員長 日野 修 治  
副委員長 近藤 圭 隼  
拡大総括幹事 吉松 茂 隆  
運営幹事 高見 慎 也  
会計幹事 西原 宗 佑  
広報幹事 須藤 恵 里  
阿部 秀 樹  
池田 英 樹  
倉富 大 樹  
小林 大 介  
佐伯 瞳  
山田 依 未

### ●基本方針

例会は、福岡JC全メンバーが月に一度集い理事長の想いを聴き、今後の福岡JCの方向性や運動の方針を共有する貴重な機会でもあります。また、メンバー同士が交流を図り親睦を深め、情報交換をおこない、LOMが一体となる場であるにもかかわらず、昨今の参加人数をみるかぎりでは、まだまだ参加率を向上させる必要があります。

全メンバーに参加義務があり、各委員会の事業や取り組みを知り、事業を行う委員会はアピールする場として、出向メンバーからの情報発信を聴く機会としても参加する必要があります。

例会を義務感として参加するのではなく、他委員会のメンバーとも積極的な情報交換が行える場として、メンバーにとって学びや気づきの機会とし、LOMの仲間との交流と親睦の場として有意義な時間となる例会を、例会委員会一丸となって企画・設営を行って参ります。

新春例会・第3エリア合同例会、通常例会、ファミリーレクリエーションとそれぞれの例会の意義と魅力をLOMメンバーに伝えるよう広報を行い参加率の向上を図ります。また、ファミリーレクリエーションでは日頃からメンバーのJC活動を支援してくれている、ご家族に感謝を伝えると共に、ご家族同士の交流がより深まるよう、メンバーも家族も楽しんでもらえる慰労の機会として企画・設営を行って参ります。

例会の企画・設営など所務通して想いを一つにすることで、委員会メンバーと共にチャレンジを続け、掛け替えの無い想い出と、共に成長できる機会を創造し、活気があり楽しく学びある委員会運営を行います。

全国大会を迎える本年度は、家族の理解と会社からの協力も今まで以上に必要となります。メンバーがより積極的なJC活動を取り組める環境創りのためにも、家庭と仕事とJCのバランスを大切にできる委員会を創って参ります。

例会を明るく、LOMメンバーが繋がる輪となり、想いを一つにする交流の機会にすることで、LOMメンバーが活発に活動できる環境創りに努め、例会委員会から未来の福岡JCを担っていくリーダーを輩出していきます。

### ●事業計画

#### ◇新春例会の企画・実施 (1月)

〈目的〉新春の門出を祝い、理事長の所信を聞くことで2024年度の福岡JCの方向性を理解し活動意欲を高めること。

〈方法〉御来賓の皆様をはじめ、全メンバーが集うための参加促進を行い、厳粛かつ華やかな雰囲気の中行えるよう設営・運営を行う。

#### ◇福岡ブロック第3エリア合同例会の企画・実施 (2月)

〈目的〉福岡ブロック協議会の方針を理解し活動意欲を高めること。第3エリア内のメンバーと交流を図り結束を強めること。また、お互いのJC活動を共有することでより良いFUKUOKAを形成していく気概をもつこと。全国大会福岡大会の開催に向け情報共有を行うこと。

〈方法〉主幹LOMである福岡JCが企画・設営し、糸島JC、朝倉JC、つくしJC、糟屋JCとの連携を図り、福岡ブロックの方針が全メンバーに行き渡るよう企画する。また5LOMの交流が図れる設営・運営を行う。

#### ◇通常例会の企画・実施 (7月、10月)

〈目的〉メンバーが委員会の垣根を超えて親睦を深めること。メンバーが全国大会に向け具体的な開催実施に関することを知る機会を創ること。卒業生を主体とし卒業に向けた例会の企画実施。

〈方法〉メンバーの声を聞いた上でLOMが一枚岩になるための企画・設営を行う。

#### ◇短縮例会の企画・実施 (6月、9月、12月)

〈目的〉LOMの進捗や方向性を確認すること。

〈方法〉効率的かつ円滑な運営ができるよう各委員会と連携を図り設営・運営を行う。

#### ◇ファミリーレクリエーション例会の企画・実施 (12月)

〈目的〉メンバーを支える家族へ感謝を伝えること。家族にJC活動を前向きに捉えてもらうこと。メンバー及び家族同士で交流し親睦を深めること。

〈方法〉LOMメンバーが一体となり家族の笑顔のために設営・運営を行う。また、福岡JCの活動を伝える機会をつくる。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会で進捗報告を行う。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年 11月	□討議 □協議 (新春例会事業企画) □討議 □協議 (第3エリア合同例会)	釜山JC周年	6月	□討議 □審議 (7月度 通常例会事業計画)	香港シティJC周年、事業実施 (短縮例会) ASPAC (カンボジア) オールメンバーの集い ブロック大会 (田川)
12月	□討議 □審議 (新春例会事業企画) □討議 □審議 (第3エリア合同例会事業計画)		7月	□討議 □審議 (6月度短縮例会事業報告) □討議 □協議 (9月度短縮例会事業計画) □討議 □協議 (10月度通常例会事業計画)	事業実施 (通常例会) サマーコンファレンス (横浜) 国際アカデミー
2024年 1月		1/31 事業実施 (新春例会) 1/18~22 京都会議	8月	□討議 □審議 (7月度通常例会事業報告) □討議 □審議 (9月度短縮例会事業計画) □討議 □審議 (10月度通常例会事業計画) □討議 □協議 □協議 (11月度ファミリーレクリエーション例会事業計画)	九州コンファレンス (霧島)
2月	□討議 □審議 (新春例会事業報告)	2/14 事業実施 (第3エリア合同例会)	9月	□討議 □審議 □審議 □審議 (11月度 ファミリーレクリエーション例会事業計画)	事業実施 (短縮例会)
3月	□討議 □審議 (第3エリア合同例会事業報告)		10月	□討議 □審議 (9月度短縮例会事業報告) □討議 □協議 (12月度短縮例会事業計画)	全国大会 サウスサイゴンJC周年 事業実施 (通常例会)
4月	□討議 □協議 (6月度短縮例会事業計画)		11月	□討議 □審議 (10月度通常例会事業報告) □討議 □審議 (12月度短縮例会事業計画)	事業実施 (ファミリーレクリエーション例会) 世界会議 (台湾)
5月	□討議 □審議 (6月度短縮例会事業計画) □討議 □協議 (7月度通常例会事業計画)	下関JC周年 広島定期歓会	12月	□討議 □審議 (11月度ファミリーレクリエーション 例会事業報告) □討議 □審議 (12月度短縮例会事業報告)	事業実施 (短縮例会) 卒業生を送る夕べ

# 親 睦 交 流 委 員 会

## 委員会スローガン【人の和】



委員長 濱田 正輝  
副委員長 國松 祥治  
拡大総括幹事 長島 義弘  
運営幹事 上野 誠司  
会計幹事 濱 直章  
広報幹事 友田 圭祐  
今泉 孝太郎  
大前 恒明  
川島 裕司  
末永 純也  
竹野 恵介  
中村 拓也  
保利 一晶

### ●基本方針

福岡青年会議所は70周年という大きな節目を迎えました。そして35年ぶりに全国大会が福岡の地にて開催されます。この機会は福岡市、福岡JCにとっても、貴重な経験となって蓄積され、素晴らしい財産になると考えます。

親睦を深めるとは、互いが信頼し合い、友情やチームワークを育むことです。仕事、人間関係またその人の背景を尊重し、互いに共感し合うことによって成り立ちます。これまでの福岡JCでは困難な課題に取り組む過程で多くのメンバーが膝と膝を突き合わせ、友情を育んで参りました。全国大会を主管する上で、シニアメンバー、現役メンバーのより強固な関係性と連携が必要だと考えます。

親睦委員会では、すべての趣味の会の企画、支援、設営を行います。趣味の会は現役メンバーにとって多くのシニアメンバーとの交流の場となります。シニアメンバー、現役メンバーが時にはお酒を酌み交わし、これまで培われてきた伝統や想いを知り肌で感じてもらい、過去に体験された経験を直接聞ける身近な機会となります。この交流を通じてメンバーの成長の機会を作ります。

また送る夕べは、ご卒業されるS59年生の門出であると同時に、新たな舞台に送り出す場でもあります。送る夕べに卒業生全員で参加してもらう為、S59年会ではテーマを決めて設営を行い、親睦委員会として50名の卒業生のこれまでの歩み、想いを知りお一人お一人に寄り添い親睦を深めます。卒業生の想いを乗せ感動溢れる送る夕べを実施します。S59年生のこれまでの歩みに光を当てつつ、シニアメンバー、現役メンバーで次のステージで活躍することができる今後の歩みの活力となる様にいたします。

親睦交流委員会には沢山の出会いと交流の機会があります。その機会の中で、1つチームとしての同じ目的に向かって行動し、新たな気づきや学び、そしてメンバー全員が、頼り頼られる存在になっていきます。

誰かのために何かを考え、行動することで自分が成長し、人の心を動かします。成長と共に受け継がれてきた伝統、想いを次世代に伝えていきます。

### ●事業計画

#### ◇卒業生を送る夕べの企画・実施

〈目的〉福岡青年会議所を卒業される昭和59年生の功績を称え、盛大にお祝いする事。

〈方法〉S59会を開催することにより卒業生との交流を深め、心に残る設営、運営を行います。

#### ◇趣味の会に関する事項

〈目的〉シニアメンバーと趣味の会を通じて親睦を深める事。

〈方法〉各種趣味の会の会長、キャプテンと調整を図り各会の、運営補助、サポートを行う。

#### ◇九州地区大会（霧島）への参加促進

〈目的〉九州地区大会の意義を理解して頂き、多くのメンバーに参加して頂く。

〈方法〉多くのメンバーにファンクションに参加してもらい、大会の意義であるJC運動を共有する事。

#### ◇全国大会福岡大会に関する事項

〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。

〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。

#### ◇研修に関する事項

〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。

〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザープなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。

#### ◇会員拡大に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。

#### ◇非常災害時における支援に関する事項

〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。

〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

### 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年					
11月		釜山JC周年	6月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）	香港シティJC周年 ASPAC（カンボジア） オールメンバーの集い ブロック大会（田川）
12月			7月		サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2024年					
1月		新春例会 京都会議	8月		九州コンファレンス（霧島）
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月			10月		全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月			11月		世界会議（台湾）
5月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	下関JC周年 広島定期交歓会	12月	□討議□協議□協議□審議（事業計画）	卒業生を送る夕べ



室長 中之蘭 匡伸

## ●基本方針

福岡青年会議所はどんなときでも歩みを止めず、まちをおもい、ひとをおもい、活動を行って参りました。本年度は全国大会の主管LOMとして、地域益、社会益、主催者益、主管益、参加者益をもたらすべく、これまで培った力を発揮し、福岡青年会議所の真価を発揮する1年でなければなりません。

広報渉外委員会では、これまでの経験を時代の変化に合わせたカタチで昇華させ、効果的な広報活動に取り組む事で対外に効率よく発信し、届けたい人に我々の活動内容や情報が届く事が重要となります。また、LOMの代表として各出向先で活動する仲間たちの支援や、全国大会を機に年間を通して来福される青年会議所の仲間を、代々受け継がれてきた福岡青年会議所の「おもてなしの精神」で迎え入れることは、福岡青年会議所の価値や目的を明確に発信できるチャンスと捉えます。

総務財政規則委員会では、全国大会の主管LOMとして、これまで以上に、ルールの明確化やガバナンスを強化し、対内における連携を強固なものとし、個人や組織の成長に繋げてまいります。活動内容をコンプライアンスに適合した、より効果的なものとして精査し、組織の基盤を整えることで福岡青年会議所の価値を底上げすることに繋がります。

福岡青年会議所が革新の機会に挑戦し続ける団体であるために、総務室が決してぶれることのない柱となり、LOMを支え邁進していきます。

# 広 報 渉 外 委 員 会

## 委員会スローガン【Whenever Wherever, You are】



委員長 麻 生 良 太  
副委員長 岩 切 拓 也  
拡大総括幹事 中 原 有 典  
運営幹事 渡 邊 裕 太 郎  
会計幹事 氣 賀 澤 暢 真  
広報幹事 山 下 一 喜  
大 城 大 青  
酒 井 健 青  
下 川 浩 平  
富 松 靖 祐  
中 島 仁 美  
三 苦 弘 典  
山 下 正 太  
山 野 晋

### ●基本方針

福岡青年会議所はまちやひとを想い、その時代に沿って活動してきた70年という歴史があります。その活動はWEBサイトをはじめ、各種SNSやプレスリリースを活用しまちの人たちの認知につなげることで内外一体となった運動へと波及させてきました。

また、世界には128の国と地域に約15万人のJAYCEEがいます。これは、私たちがJAYCEEだからこそ得られるかけがえのない出会いであり、LOMを代表して出向するメンバーを支えることがLOMの成長へとつながると確信しています。

急速に進化を続けるデジタル社会において、福岡JCの在り方も同様に変化してきました。情報は「得る」時代から「選ぶ」時代へと変化し、ただ公開するだけでは届かず、SNSで発信しても多くのひとに届けることは難しい時代となりました。効果的な情報発信にこそ意味があり、戦略的な目標設定にこそ結果が伴うことを理解して広報活動を行うことが求められています。

本年度は、全国大会福岡大会を主管することによって、一般市民を含めた多くの人々が、その入口となる福岡JCのホームページを訪問することになります。また、全国各地のLOMから福岡の地を訪れる各地青年会議所メンバーの数も激増します。これまでとは桁違いの注目が集まり、我々の活動がより一層多くの人たちの目に触れることとなります。

本年度、広報渉外委員会は、福岡JCの関わる全てを対外・対内に確実に発信し、これまで培ってきた福岡JCのおもてなしの心をもって来福される青年会議所の仲間を迎え入れることをお約束します。一つの事業を一過性の事業とせず、一つの出向をより意義のあるモノへと昇華させます。

所務を活かし、いつでもどこでも顔を出す広報渉外委員会の行動原理は常に「あなたのために」。そうして、自分ではない誰かのために行動をおこすメンバー一人ひとりは、正にJCIの掲げる『能動的な市民』となり、皆を先導するリーダーへと成長します。「誰かのために」「あなたのために」という思いを常に持ち、責任を持って行動できる委員会を皆で作っていきます。

### ●事業計画

□LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施

◇LOMホームページの企画・管理・運営に関する事項

〈目的〉福岡JCの取り組みや事業を、対内・対外ともに広く情報発信すること。

〈方法〉ホームページのリニューアルを行い、随時更新し、対内・対外に情報発信を行う。

◇LOM紹介映像の制作に関する事項

〈目的〉対外：福岡JCのことを外部に発信し、知って頂き、共感して頂くこと。

対内：福岡JCでの活動のモチベーションにつながる情報を動画で伝えること。

〈方法〉2024年度版のLOM紹介映像を作り、ホームページやSNSでの発信で人々が目にする機会を増やす。また、新春例会をはじめ各種事業でも放映し、メンバーをはじめ福岡青年会議所に関わった人々の目に触れる機会を増やす。

◇SNSを利用した各種行事・プレスリリースによる情報発信に関する事項

〈目的〉対外・対内へ最新の情報を発信することで事業への参加促進や拡大、そして福岡JCのブランディング向上へとつなげる。

〈方法〉FacebookとInstagram、そしてTwitterを活用し事業関連の発信を実施。基本的な発信フォーマットに則り、各委員会からのリクエストに応じて対応する。そして福岡青年会議所に所属するマスメディア企業のメンバーと定期的な交流を図り、情報を交換する。

◇SNSを利用した情報発信の管理・運営

〈目的〉効果的で正確な情報を迅速に届けることで、メンバーの活動をより活発化させる。

〈方法〉Googleカレンダーでスケジュールを管理し、リマインドを含めLINE@でスケジュールを発信する。また、SNS情報も発信し、オンライン上の円滑な管理・運営を行う。

□LOM活動の効果的な対外情報発信に関する管理・総括の実施

◇外部団体からの取材などの対応に関する事項

〈目的〉外部団体と友好的な関係を築き、有意義な情報交換を図れる体制を整備し、外部からの取材依頼などにも迅速に対応できる体制を構築すること。

〈方法〉他団体の集会にも積極的に参加する。また能動的に取材が入るよう情報交換を行う。

◇LOM活動における写真・動画等の記録・管理に関する事項

〈目的〉様々な取り組みを未来のLOMの財産として残し、今後の発展に寄与すること。

〈方法〉各事業や集会に参加し、写真や動画を撮影する。万が一、委員会メンバーが参加できない場合は、現地にいるメンバーに撮影を依頼する等の対応で記録を残す。

# 広 報 渉 外 委 員 会

- 出向に関する事項
  - ◇役員出向者のアテンド及び支援
    - 〈目的〉 JCI日本、九州地区協議会、福岡ブロック協議会に出向する役員の支援をすること。
    - 〈方法〉 役員出向者と綿密にコミュニケーションを図り、すべてのスケジュールを把握し、福岡市開催の集会や事業のサポート、遠隔地へのアテンド計画の補助を行う。
  - ◇出向者の支援及び対内への情報発信
    - 〈目的〉 JCI日本、九州地区協議会、福岡ブロック協議会に出向するメンバーの支援をすること。
    - 〈方法〉 出向者と綿密にコミュニケーションを図り、すべてのスケジュールを把握し、福岡市開催の集会や事業のサポート。各種事業に関しても情報を発信し参加促進の一助を担う。
  - ◇出向促進セミナーの実施
    - 〈目的〉 JCI日本、九州地区協議会、福岡ブロック協議会など出向への理解と参加促進を行うこと。
    - 〈方法〉 2023年11月にセミナーの企画実施、2024年10月にセミナーの企画実施を行う。
  - ◇サマーコンファレンスへの参加促進・LOMナイトの企画・実施
    - 〈目的〉 サマーコンファレンスの参加促進と出向者の慰労をすること。
    - 〈方法〉 フォーラムとセミナーへの参加依頼、及びLOMナイトの開催。
  - ◇全国大会福岡大会に関する事項
    - 〈目的〉 全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。
    - 〈方法〉 実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込む為、毎月の委員会で進捗報告を行う。
  - ◇研修に関する事項
    - 〈目的〉 仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。
    - 〈方法〉 オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。
  - ◇会員拡大に関する事項
    - 〈目的〉 会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。
    - 〈方法〉 会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。
  - ◇非常災害時における支援に関する事項
    - 〈目的〉 非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
    - 〈方法〉 日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年 11月	□討議□協議□協議□協議 (ホームページ作成議案)	出向者セミナー 釜山JC周年	6月		香港シティJC周年 ASPAC(カンボジア) オールメンバーの集い ブロック大会(田川)
12月	□討議□審議□協議□審議 (ホームページ作成議案)		7月		サマーコンファレンス(横浜) 国際アカデミー
2024年 1月		新春例会 京都会議	8月		九州コンファレンス(霧島)
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月			10月		全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月			11月		出向者セミナー 世界会議(台湾)
5月		下関JC周年 広島定期交歓会	12月		卒業生を送る夕べ

# 総務財政規則委員会

## 委員会スローガン【常念必現】



委員長 伊達 高志郎  
副委員長 中井 新一  
拡大総括幹事 藤岡 勇樹  
運営幹事 新納 尚祐  
会計幹事 前田 隆一郎  
広報幹事 土井 勇太  
赤間 大地  
白水 雄二  
新家 正久  
武田 愛  
谷川 進也  
中野 篤志  
橋本 剛  
藤木 稔大

### ●基本方針

福岡JCは、本年度全国大会を迎え、議案のスケジュールや全国大会の各所務など、前例にない機敏な行動が求められる一年になります。そうした中、我々総務財政規則委員会には、「迅速」かつ「正確」な総務面・財政規則面の運営を行っていく必要があります。その迅速性・正確性を担保するのは、委員会内外におけるコミュニケーションであり、決して独りよがりにならない委員会運営をしていかなければなりません。

当委員会では、各種セミナーや議案のチェックを通じて、各委員会が円滑に事業構築を行い、コンプライアンスに適合した事業を実施できるよう、各委員会の声を聴き共に歩んでいきます。そのために、誰よりも議案に詳しくなり、誰よりも議案を読み込み、ときには厳しい意見を述べることで、議案の精度を高め、よりよい事業へと手助けをしていきます。

また、総務面においては、各会議体の設営・運営をスムーズに行うことは当然のこと、活発な会議が実施できるよう、スケジュール管理も含め、万端の事前準備を行っていきます。

委員会メンバーには、福岡JCの総務の運営・財政規則の精査を通じて、当事者意識をもって行動することの大切さを学んでいただきたいと思います。誰かがやっている事業ではなく、自分自身が事業にコミットしていくという意識を持って行動することで、各所務が単なる作業ではなく、福岡JCの根幹を支えるかけがえのない挙動になっていきます。

そして、メンバー一人ひとりが、自分自身の頭で考え、自身の課題として取り組むことで、福岡JCの中核となるメンバーへと成長してほしいと思っています。福岡JCの全ての事業に携わる私たちだからこそ、俯瞰的な視点を身に付けることができます。その視点こそが、福岡JCの課題を見出し、解決策を思案し、未来の福岡JCを変えていく原動力となります。

委員会メンバー全員で、同じ目標に向かって全力で取り組み、我々で明日の福岡JCを作っていきます。

### ●事業計画

#### ◇委員会事業に関する予算、決算の事前審査

〈目的〉メンバーからの会費を有効的に、また効果を最大化できるように事業予算が適正に計画され、実行されているかを厳正に審査すること。

〈方法〉各事業において、背景・目的・手法を確認し、予算が適正に使用・処理されているかを精査する。

#### ◇委員会事業に関するコンプライアンスの事前審査

〈目的〉各事業がコンプライアンス上適正なものであるかを審査し、JCとしてのルール、社会一般のルールを順守していくこと。

〈方法〉事業内容がコンプライアンスに則っているか、JCとしてのルールと社会通念上の規範を逸脱していないかを審査する。

#### ◇総会、理事会、常任理事会の設営・運営

〈目的〉各会議体の効率化を求め、より有益性の高い会議を運営し、福岡JCとしての意思を明確にすること。

〈方法〉各会議体において役割分担を明確化、出欠確認の徹底、時間厳守を行う。また、正確な議事録を作成し、決定した意思とそのプロセスを明確化する。

#### ◇各委員会の議案上程スケジュールの管理

〈目的〉各議案が適正に協議・審議されるように、各委員会に周知徹底すること。

〈方法〉上程スケジュールの締切りを徹底するため、クラウドシステムを利用し各議案状況を把握し、アナウンスを行う。

#### ◇各委員会の議案に関する審査

〈目的〉JCのルールに則った議案となるように整えること。

〈方法〉各議案に対し、統一語句、誤字脱字のチェックを行う。

#### ◇各委員会議事録、事業報告書の管理・保持

〈目的〉各委員会の活動内容を把握できるようにするため、各委員会の議事録を管理すること。また、今後の事業構築に資するため、事業報告書を管理すること。

〈方法〉各委員会への議事録・事業報告書の期限内提出のアナウンスを行う。また、広報渉外委員会と連携し、福岡JCホームページの会員ページで閲覧できるようにする。

#### ◇会員規律、入会に関する事項

〈目的〉会員規律の意義を周知徹底し、組織が永続的に続くように努めること。

〈方法〉正会員に会員規律の徹底を促し、新入会員には入会審査時に説明を行う。

#### ◇役員、副、幹事セミナーの設営・運営

〈目的〉各会の運営方法、スタッフの各役割を明確にし、セミナーを通じて全メンバーに周知し、委員会活動の円滑化を図ること。

〈方法〉セミナー資料を再構築し、要点や変更点などを説明する。

# 総務財政規則委員会

- ◇議案構築・財政規則に関するセミナーの企画・実施
  - 〈目的〉財政面、規則面に関する知識や見識を深めていただき、より精度の高い議案や収支計画の実現をめざすこと。
  - 〈方法〉セミナー資料を再構築し、修正指摘が多い箇所を中心に分かりやすい説明をし、議案の精度を高めていただく。
- ◇会員褒賞の企画・実施
  - 〈目的〉会員のモチベーションが高くなるように、各種褒賞を設定すること。
  - 〈方法〉褒賞内容は分かりやすく、かつ、取り組みやすいものとし、推薦方法及び選考基準に不明瞭な部分がないように褒賞内容を企画する。
- ◇褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック）
  - 〈目的〉当該年度の事業について、褒賞申請を行うことで、福岡JCの魅力在全国に発信すること。
  - 〈方法〉褒賞内容の確認をし、申請の段取りを把握したうえで、申請を行う。
- ◇議案上程システムの調査・研究
  - 〈目的〉クラウド管理システム「G.I.JO」はアップデートが必要か、上程スケジュールについても弊害が何かを調査・研究し、よりよい議案上程システムの構築を行うこと。
  - 〈方法〉各委員会へのヒアリングを行い、現状の把握、課題の抽出を行う。
- ◇広島定期交歓会の設営・運営
  - 〈目的〉広島で実施される広島定期交歓会において、友好JCである広島JCとの交流を図ること。
  - 〈方法〉懇親会等を通じて、互いの親睦を深め、今後のJC活動に活かせる情報を共有できる場を設営する。
- ◇全国大会福岡大会に関する事項
  - 〈目的〉全国大会福岡大会の成功に向けて、主催の日本青年会議所との連携や実行委員会組織の運営を行うこと。
  - 〈方法〉実行委員会で担当となる議案の作成。全国大会運営会議と連携して、議案の上程。10地区のキャラバンを実施。メンバーを巻き込むため、毎月の委員会で進捗報告を行う。
- ◇研修に関する事項
  - 〈目的〉仮入会者への指導・研修をし、次世代のメンバーの育成をする。
  - 〈方法〉オリエンテーションを通して修練・奉仕・友情を経験させる。また、オブザーブなどにより正会員のメンバーとの交流、そして福岡JCの魅力を発信する。
- ◇会員拡大に関する事項
  - 〈目的〉会員拡大においては、LOMの成長と街への貢献を考え、その視点で会員拡大に取り組む。
  - 〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識をもち、委員会内での情報発信と共有を行う。また委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。
- ◇非常災害時における支援に関する事項
  - 〈目的〉非常災害が発生した時に、迅速に災害支援を行いまちに貢献すること。
  - 〈方法〉日常的に防災意識を持ち、非常時に迅速に行動できるように努める。

## 委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2023年 11月	□討議□協議□協議□協議（褒賞議案）	釜山JC周年	6月		香港シティJC周年 ASPAC（カンボジア） オールメンバーの集い ブロック大会（田川）
12月	□討議□審議□協議□審議（褒賞議案）		7月		サマーコンファレンス（横浜） 国際アカデミー
2024年 1月		新春例会 京都会議	8月		入会審査（後期） 九州コンファレンス（霧島）
2月		第3エリア合同例会	9月		
3月			10月		全国大会 サウスサイゴンJC周年
4月		入会審査（中期）	11月		世界会議（台湾）
5月		下関JC周年 広島定期交歓会	12月		入会審査（前期） 卒業生を送る夕べ 総会

一般社団法人 福岡青年会議所  
2024年度 室・委員会 所務分掌規程

<p><b>■全国大会推進室</b> □全国大会福岡大会に関するすべての事項</p>	<p><b>■全国大会推進委員会</b> □全国大会福岡大会に関する事項 ◇全国大会福岡大会実行委員会の組織の全体確認・把握 ◇全国大会福岡大会実施における進捗状況の確認・把握 ◇全国大会福岡大会に関するすべての取りまとめ ◇全国大会福岡大会開催中の実行委員会すべての連絡調整窓口 ◇全国大会福岡大会紹介映像の制作・編集 □通常例会の企画・実施(8月) □会員拡大・研修に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■子ども未来室</b> □サウスサイゴンJCに関する事項 □全国大会福岡大会に関する事項</p>	<p><b>■チャイルドケア活性化委員会</b> □親、子どもの住み暮らしやすい福岡を活性化していく事業の実施 □公開例会の実施(4月子ども未来室合同開催) □全国大会福岡大会に関する事項 □会員拡大・研修に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■Z&amp;α総活躍委員会</b> □Z世代及びα世代(小学生～大学生を対象)に対しての育成事業の実施 □公開例会の実施(4月子ども未来室合同開催) □全国大会福岡大会に関する事項 □会員拡大・研修に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■魅力発信室</b> □サウスサイゴンJCに関する事項 □全国大会福岡大会に関する事項</p>	<p><b>■グローバル都市発信委員会</b> □グローバルシティを推進していく事業の実施 □世界会議(台湾)への参加促進 □ASPAC(カンボジア)への参加促進 □全国大会福岡大会に関する事項 □会員拡大・研修に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■地域の魅力発信委員会</b> □産学官民と連携しながら福岡の魅力を発信していく事業の実施 □福岡ブロック大会(田川)への参加促進 □全国大会福岡大会に関する事項 □会員拡大・研修に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■FUKUOKA創造室</b> □香港シティJCに関する事項 □全国大会福岡大会に関する事項</p>	<p><b>■芸術文化創造委員会</b> □アートを活用したまちづくり・ひとづくり事業の実施 □公開例会の実施(5月) □全国大会福岡大会に関する事項 □会員拡大・研修に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■スポーツ文化創造委員会</b> □スポーツを活用したまちづくり・ひとづくり事業の実施 □公開例会の実施(3月) □全国大会福岡大会に関する事項 □会員拡大・研修に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■LOM推進室</b> □香港シティJCに関する事項 □全国大会福岡大会に関する事項</p>	<p><b>■会員拡大委員会</b> □会員拡大の推進 □拡大推進会議の設営・運営 □シニアクラブに関する事項 □オールメンバーの集いの企画・実施 □全国大会福岡大会に関する事項 □研修に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>
	<p><b>■会員拡大委員会</b> □仮入会者への指導・研修に関する事項 □仮入会者へのオリエンテーションの企画・実施 □やすらぎ荘に関する事項 □新入会同期会事業(ところてん)に関する事項 □全国大会福岡大会に関する事項 □会員拡大に関する事項 □非常災害時における支援に関する事項</p>

<p><b>■ 会員交流室</b></p> <p><input type="checkbox"/> トリオ会議に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 全国大会福岡大会に関する事項</p>	<p><b>■ 例会委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 新春例会の企画・実施 (1月)</p> <p><input type="checkbox"/> 福岡ブロック第3エリア合同例会の企画・実施 (2月)</p> <p><input type="checkbox"/> 通常例会の企画・実施 (7月・10月)</p> <p><input type="checkbox"/> 短縮例会の企画・実施 (6月・9月・12月)</p> <p><input type="checkbox"/> ファミリーレクリエーション例会の企画・実施 (11月)</p> <p><input type="checkbox"/> 全国大会福岡大会に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■ 親睦交流委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 卒業生を送る夕べの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 趣味の会に関する事項</p> <p>    ◇ ジャがいもクラブ・ぼうふら会の設営・運営</p> <p>    ◇ 迷球会・FJCPONZ・ノーサイドクラブ・茶道同友会の支援・交流</p> <p><input type="checkbox"/> 九州地区大会 (霧島) への参加促進</p> <p><input type="checkbox"/> 全国大会福岡大会に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>
<p><b>■ 総務室</b></p> <p><input type="checkbox"/> トリオ会議に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 全国大会福岡大会に関する事項</p>	<p><b>■ 広報渉外委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> LOM運動の広報手法を調査・研究・実施</p> <p>    ◇ 効果的な情報発信の実施</p> <p>    ◇ ホームページの管理・運営</p> <p>    ◇ LOM紹介映像の制作</p> <p>    ◇ 各種行事の情報発信</p> <p>    ◇ SNSを利用した情報発信の管理・運営</p> <p>    ◇ プレスリリースに関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> LOM活動の効果的な対外情報発信に関する管理・総括</p> <p>    ◇ 外部団体などの取材対応</p> <p>    ◇ LOM活動における写真・動画などの記録・管理</p> <p><input type="checkbox"/> 役員出向者のアテンド及び支援</p> <p><input type="checkbox"/> 出向者の支援及び対内への情報発信に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 出向促進セミナーの実施</p> <p><input type="checkbox"/> サマーコンファレンスへの参加促進、LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 全国大会福岡大会に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p> <p><b>■ 総務財政規則委員会</b></p> <p><input type="checkbox"/> 委員会事業に関する予算、決算の事前審査</p> <p><input type="checkbox"/> 委員会事業に関するコンプライアンスの事前審査</p> <p><input type="checkbox"/> 総会、理事会、常任理事会の設営・運営</p> <p><input type="checkbox"/> 各委員会の議案上程スケジュールの管理</p> <p><input type="checkbox"/> 各委員会の議案に関する審査</p> <p><input type="checkbox"/> 各委員会議事録、事業報告書の管理・保持</p> <p><input type="checkbox"/> 会員規律、入会に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 役員、副、幹事セミナーの設営・運営</p> <p><input type="checkbox"/> 議案構築・財政規則に関するセミナーの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 会員褒賞の企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> 褒賞申請の作成 (JCI・日本・地区・ブロック)</p> <p><input type="checkbox"/> 議案上程システムの調査・研究</p> <p><input type="checkbox"/> 広島定期交換会の設営・運営</p> <p><input type="checkbox"/> 全国大会福岡大会に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における支援に関する事項</p>

事務局長・常務理事・セクレタリー 所務分掌

<p><b>事務局長</b></p>	<p><input type="checkbox"/> 外部団体出向、後援依頼の調査、確認に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 会員名簿、名刺、ネームプレートの作成に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 事務局の運営</p> <p><input type="checkbox"/> 常務理事・セクレタリーの統括</p> <p><input type="checkbox"/> 各諸会議の監督</p> <p><input type="checkbox"/> JCI北九州との交流に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 会員拡大・研修に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 非常災害時における対応窓口</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>
<p><b>常務理事</b></p>	<p><input type="checkbox"/> 理事長の同行及び所務の補佐</p> <p><input type="checkbox"/> 専務理事、事務局長のサポート</p> <p><input type="checkbox"/> 理事長のスケジュール管理、調整に関する事項</p> <p><input type="checkbox"/> 京都会議への参加促進、LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>
<p><b>セクレタリー</b></p>	<p><input type="checkbox"/> 理事長の同行及び所務の補佐</p> <p><input type="checkbox"/> 京都会議への参加促進、LOMナイトの企画・実施</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>

一般社団法人福岡青年会議所 2024年度委員会編成表

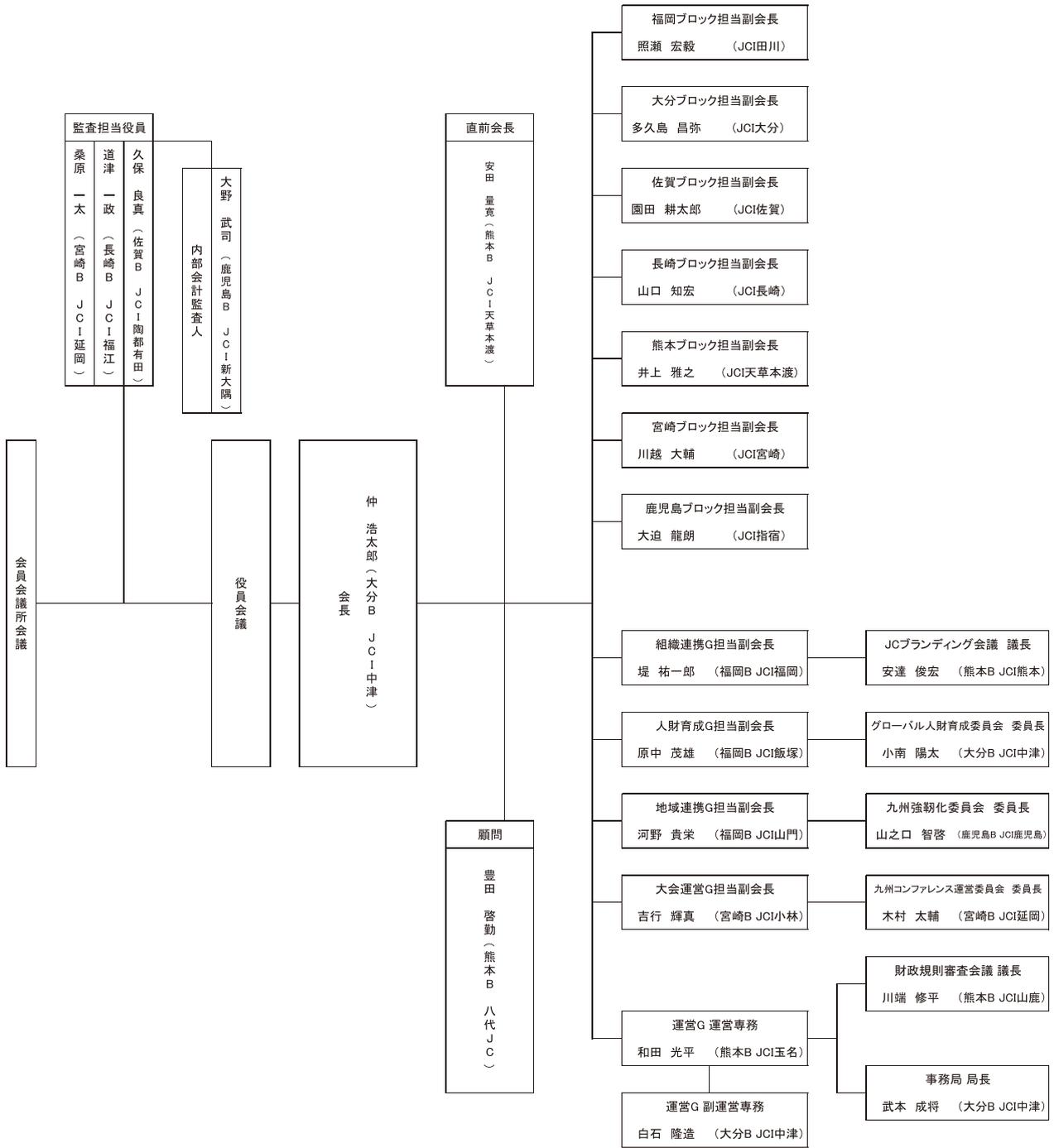
理事長 石坂 泰三									
副理事長	全国大会実行委員長 中原 壮一郎	原 翼	尾本 勝征	古田 真幸	堤 祐一郎	神 洋章	専務理事 吉田 豊	直前理事長 前川 裕貴	
室	室長	委員	委員	委員	委員	委員	総務室	監事	
	全国大会推進室	子ども未来室	魅力発信室	FUKUOKA創造室	LOM推進室	会員交流室	総務室	水崎 浩二	
	甲木 正孝	上田 久紀	大幡 則文	立部 真康	田 雅 嘉 真	田 原 義 也	中之園 匡伸		
委員会	全国大会推進委員会	香川地区活性化委員会	福岡県活性化委員会	市民文化創造委員会	市民文化創造委員会	例祭委員会	総務財政規則委員会		
委員長	加地 優紀	鶴 和晃	森 重樹	小柳 佑貴	馬場 秀一	日野 修治	伊達 高志郎		
副委員長	千代田 明久	西方 亮祐	松元 和洋	菅原 豊道	浦田 慎也	近藤 圭	伊達 高志郎		
拡大総括幹事	中村 正史	松田 礼華	安良岡 成晃	池田 拓史	寺内 享忠	吉松 茂隆	藤岡 勇樹	阿部 健太郎	
運営幹事	外田 和博	吉山 慎一	入江 賢	合谷 賢太	加地 英紀	高見 慎也	新納 尚祐	奥 勝 和 時	
会計幹事	池田 翔一	楠原 さつき	工藤 大明	宮内 貴仁	田中 海人	西原 宗祐	前田 隆一郎		
広報幹事	秋山 馨	永松 英知	竹田 一國	最所 隼人	山田 智也	須藤 恵里	土井 勇太	伊東 健太郎	
(出向理事)	倉掛 裕輔							三浦 隆祐	
委員 1.	亀井 亮太	内野 睿子	進藤 貴聡	石田 光彦	井ノ口 翼	阿部 秀樹	赤間 大地		
2.	高島 恒	古賀 彩華	河面 洋平	佐藤 大輔	尾花 一樹	池田 英樹	白水 雄二		
3.	中間 悠介	那須 亮太	近藤 瑛理	津田 浩	川添 裕士	倉富 大樹	新家 正久		
4.	濱野 雅行	坂庭真 彩子	近永 征也	坪井 智之	坂元 太施	小林 大介	武田 愛		
5.	正岡 憲	船越 幹治	野元 優	中野 蓮吾	重松 祐樹	佐伯 瞳	谷川 進也		
6.	松岡 健太	古本 美由紀	服部 慎吾	野濤 圭介	針尾 洋平	山田 依未	中野 篤志		
7.	村津 万里	三浦 匠	平野 由衣	松村 裕康	薬師 雅貴	保利 一晶	橋本 剛		
8.		村上 瑠	山口 望	吉永 有里	松尾 惠介	山野 晋	藤木 稔大		
9.			笠 健太郎	米村 祐太	横田 颯次			セクレタリー 牛島 淳嗣	
10.									
11.								樋口 洸太	
12.									
13.								前田 幹太	
14.									

## 青年会議所の概況

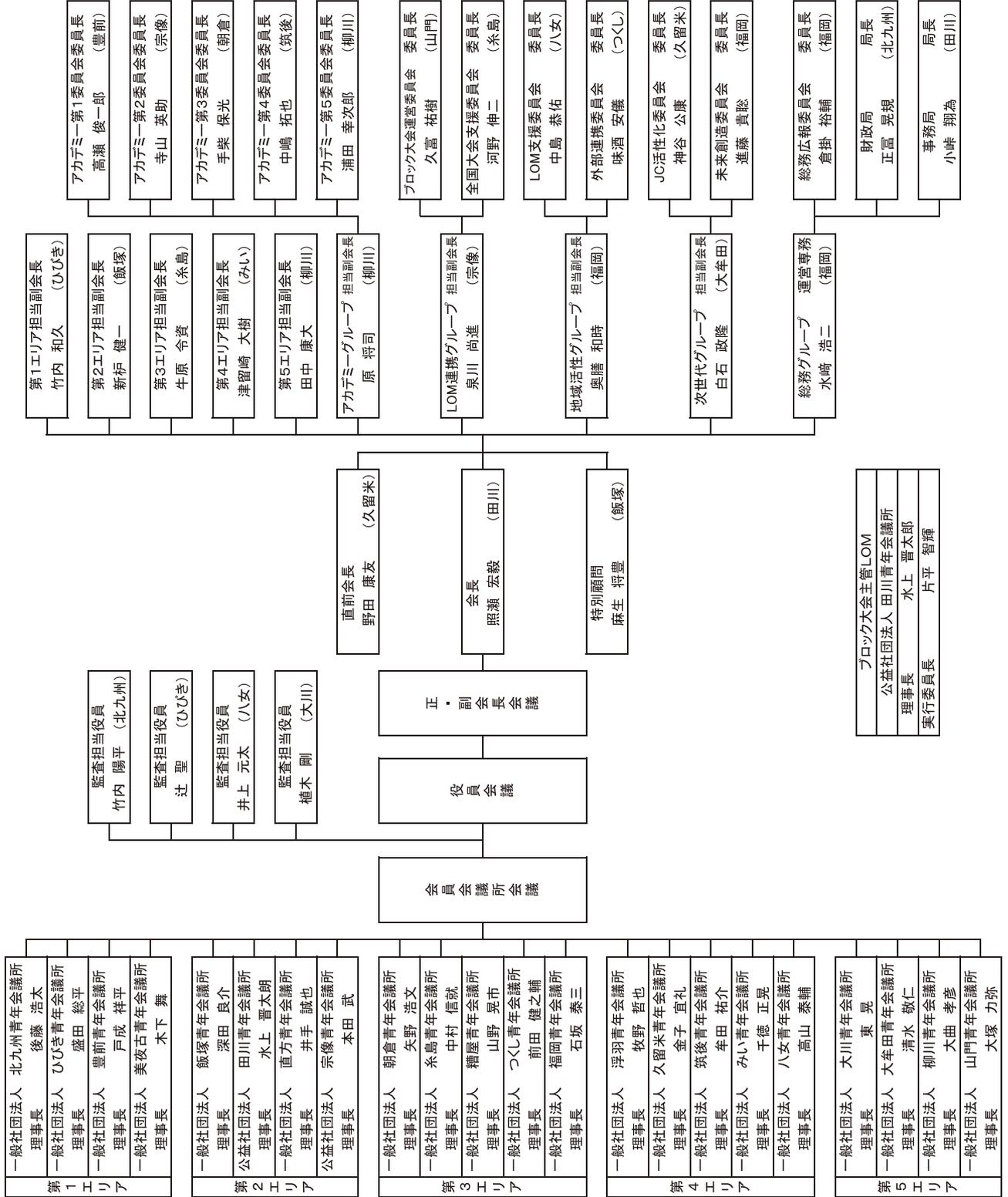
- JCI 加盟国 106 NOMs
- JCI 加盟 JC 数 4,713 LOMs 会員数 145,336 名 < 2022年12月現在 >
- 日本 JC 加盟 JC 数 684 LOMs 会員数 27,798 名 < 2023年10月1日現在 >
- 福岡 JC 会員数 209 名 < 2024年1月1日推定 >
  
- 福岡 JC 創立関連
  - 《 創 立 年 月 日 》 1953 年 2 月 4 日 《 スポンサー JC 》 宮崎 JC
  - 《 法人許可年月日 》 1971 年 4 月 24 日
  - 《 一般社団法人  
移行年月日 》 2013 年 10 月 1 日
  
- スポンサー JC 飯塚 JC、久留米 JC、直方 JC、つくし JC、糸島 JC、糟屋 JC
  
- シスター JC 釜山 JC (韓国) 1965 年 4 月 20 日  
※下関 JC と共にトリオ JC として姉妹締結  
城市 JC (香港) 1984 年 11 月 4 日 姉妹締結  
サウスサイゴン JC (ベトナム)  
2016 年 11 月 1 日 姉妹締結
  
- 友好 LOM 北九州 JC 2001 年 11 月 21 日 友好 LOM 締結  
広島 JC 1986 年から毎年、交歓会を開催



公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 2024年度 組織図



2024年度 福岡ブロック協議会 組織図



## 福岡青年会議所 歴代理事長

第1期 ( 1953年 2月~6月 )	橋上 保久	第37期 (1989年)	石坂 博史
第2期 ( 1953年7月~ 1954年6月 )	橋上 保久	第38期 (1990年)	真鍋 博俊
第3期 ( 1954年7月~ 1955年6月 )	具島 正二	第39期 (1991年)	小林 専司
第4期 ( 1955年7月~ 1956年12月 )	具島 正二	第40期 (1992年)	樺島 逸兵
第5期 (1957年)	伊藤 剛平	第41期 (1993年)	菅原 正道
第6期 (1958年)	高松 光彦	第42期 (1994年)	河邊 哲司
第7期 (1959年)	武内 徳夫	第43期 (1995年)	安川 哲史
第8期 (1960年)	野上 恭敬	第44期 (1996年)	松山 政司
第9期 (1961年)	坂本 行雄	第45期 (1997年)	吉松 修
第10期 (1962年)	高松 邦彦	第46期 (1998年)	田中 彰洋
第11期 (1963年)	喜多村辰男	第47期 (1999年)	新町 敦志
第12期 (1964年)	四島 司	第48期 (2000年)	藤野 利浩
第13期 (1965年)	大賀禮太郎	第49期 (2001年)	井上 貴博
第14期 (1966年)	麻生 純三	第50期 (2002年)	岩本 仁
第15期 (1967年)	久野 桂一	第51期 (2003年)	廣田 稔
第16期 (1968年)	中島 邦補	第52期 (2004年)	井上 博行
第17期 (1969年)	栗栖健一郎	第53期 (2005年)	宮崎 鐘子
第18期 (1970年)	田中丸善司	第54期 (2006年)	小池 勝利
第19期 (1971年)	後藤 隆雄	第55期 (2007年)	富永 太郎
第20期 (1972年)	洞 尚	第56期 (2008年)	新開 裕司
第21期 (1973年)	江口昭八郎	第57期 (2009年)	大村 光
第22期 (1974年)	金子 宜嗣	第58期 (2010年)	大山 哲寿
第23期 (1975年)	近江 福雄	第59期 (2011年)	長沼 慶也
第24期 (1976年)	古賀 秀策	第60期 (2012年)	末松 大和
第25期 (1977年)	加地 良一	第61期 (2013年)	田川 幸平
第26期 (1978年)	富永 恒二	第62期 (2014年)	森山 新樹
第27期 (1979年)	榎本 一彦	第63期 (2015年)	中田 泰平
第28期 (1980年)	冬至 洋一	第64期 (2016年)	藤 眞臣
第29期 (1981年)	新川 宏輔	第65期 (2017年)	鈴木 大輔
第30期 (1982年)	青柳 泰秀	第66期 (2018年)	田島 敬悟
第31期 (1983年)	熊谷 信治	第67期 (2019年)	岩木 勇人
第32期 (1984年)	福永 周兵	第68期 (2020年)	出田 正城
第33期 (1985年)	榎本 正弘	第69期 (2021年)	彌登 義明
第34期 (1986年)	中牟田健一	第70期 (2022年)	西嶋 聖
第35期 (1987年)	中村 量一	第71期 (2023年)	前川 裕貴
第36期 (1988年)	財津 重美		

## 出向外部団体一覧

	団体名
1	NPO 法人 アジア太平洋子ども会議・イン福岡
2	アジア太平洋子ども会議・イン福岡支援の会
3	アジア太平洋子ども会議・イン福岡実行委員会
4	BCIO (Bridge Club International Organization)
5	福岡地域留学生交流推進協議会
6	福岡・US オークランド姉妹都市委員会
7	福岡・広州姉妹都市委員会
8	福岡・ボルドー姉妹都市委員会
9	福岡・NZ オークランド姉妹都市委員会
10	北方領土返還促進福岡県民協議会
11	アビスパ福岡後援会
12	福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議
13	一般社団法人 九州市民大学
14	福岡市民の祭振興会
15	福岡市地球温暖化対策市民協議会
16	福岡フィルムコミッション
17	福岡市交通安全推進協議会
18	福岡市自動車交通公害防止計画推進協議委員会
19	犯罪のない安全で住みよいまちづくり推進本部
20	FUKUOKA みらいプロジェクト
21	那珂川水上交通活性化推進協議会
22	福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会
23	地域司法連絡協議会
24	FUKUOKA Christmas Market 実行委員会
25	福岡マラソン実行委員会
26	アビスパグローバルアソシエイツ (AGA)
27	一般社団法人 九州インターンシップ推進協議会
28	社会福祉法人 野の花学園
29	福岡トライアスロン組織委員会
30	グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム
31	福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会
32	博多湾芸術花火開催委員会
33	福岡県スポーツ推進審議会 スポーツ未来像部会



## 一般社団法人 福岡青年会議所

〒812-0021

福岡市博多区築港本町 13-6 バイサイドプレイス博多 C棟

TEL: 092-263-6333 FAX: 092-263-6334

13-6, Chikkouhonmachi, Hakataku,

Fukuoka-shi, Fukuoka, 812-0021, JAPAN

PHONE +81-92-263-6333 FAX +81-92-263-6334

<https://www.fukuoka-jc.or.jp/>

E-mail [jci-fukuoka@dream.jp](mailto:jci-fukuoka@dream.jp)